

③ 「大好きなまち山口」 絵画コンクール

第二次山口市総合計画の策定は、市民の皆様とともに進めてまいりました。

市内小中学生の皆さんには、「これが私のふるさとだ 山口」をテーマに絵画の募集を行い、山口市の未来の姿を自由な発想で描いていただきました。

テーマ:これが私のふるさとだ 山口

応募期間:平成29年7月10日(月)～9月5日(火)

応募点数:507点うち(入賞29点、入選144点)

最優秀賞

小学校低学年

阿知須小学校2年 ひかいやま 向山 たくみ 拓実さん
「うんどう大好き 山口市」



小学校中学年

附属山口小学校4年 たがわ 谷川 煌 煌さん
「山口のちょうちん祭」



小学校高学年

附属山口小学校6年 いしい 石井 すずな 鈴菜さん
「ずっと大好き 笑顔いっぱいの山口市」



中学生

白石中学校3年 さとう 佐藤 のぞみ 希さん
「輝く、山口。」



優秀賞

小学校低学年

小郡小学校2年 山根 五十鈴さん
「自然と音楽のまち - やまぐち -」



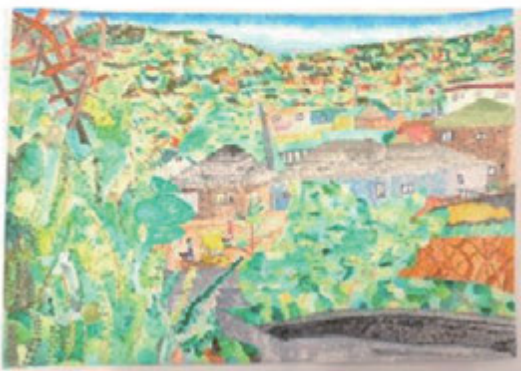
小学校中学年

陶小学校3年 富村 祥太朗さん
「未来へむかってかわる山口 かわらない
ぼくのふるさと」



小学校高学年

嘉川小学校6年 三輪 恵子さん
「大好きな町」



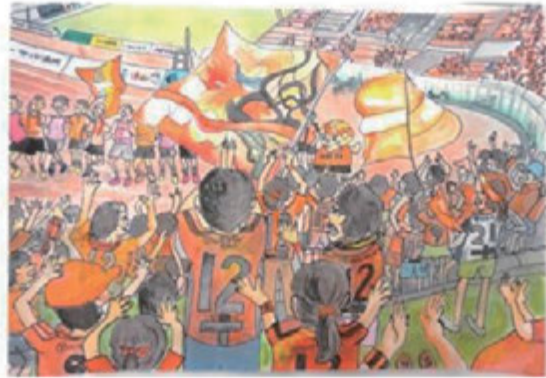
中学生

附属山口中学校2年 福田 遼さん
「花火を見ながら」



レノファ賞

良城小学校5年 浦 ことみさん
「レノファ J1めざしてみんなで応援！！」



特別賞（小学校低学年）

大歳小学校1年 ^{このの}今野 ^{ここみ}心美さん
「みどりのやまぐち」



小鱈小学校1年 ^{しばさき}柴崎 ^{ひまり}向日葵さん
「いつまでもしぜんいっぱい山口」



上郷小学校1年 ^{ないとう}内藤 ^{みう}美羽さん
「エスエルみらいのへや」



大内南小学校2年 ^{なかむら}中村 ^{ゆうか}ゆうかさん
「いつまでもみんなあつまれ ふんすいひろば」



附属山口小学校2年 ^{やすもと}安本 ^{りお}梨央さん
「ゆめのまち やまぐち」



特別賞（小学校中学年）

生雲小学校3年 ^{すいず}水津 ^{まさき}真稀さん
「しぜんがいっぱい山口市」



大内小学校3年 ^{すえなが}末永 ^{あや}綾さん
「山口のSL」



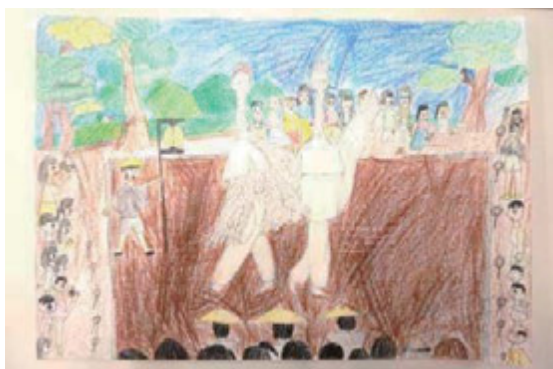
湯田小学校4年 ^{たなか}田中 ^{はる}華さん
「かわいい楽しい山口市」



宮野小学校4年 ^{みぎた}右田 ^{あい}愛佳さん
「緑ゆたかな温かい町」



良城小学校3年 ^{もとishi}元石 ^{ななみ}ななみさん
「みんなでみた白サギのまい」

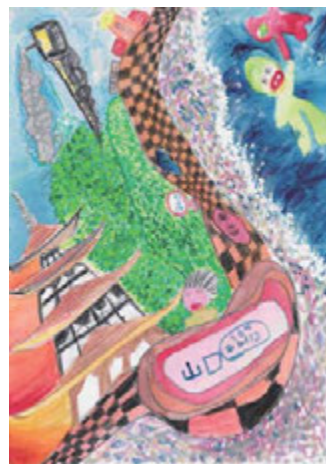


特別賞（小学校高学年）

良城小学校6年 ^{いとう}伊藤 ^{りさ}里紗さん
「がんばれレノファ！！」



湯田小学校6年 ^{なかむら}中村 ^{たかひさ}敬久さん
「どこへでもひとつとび」



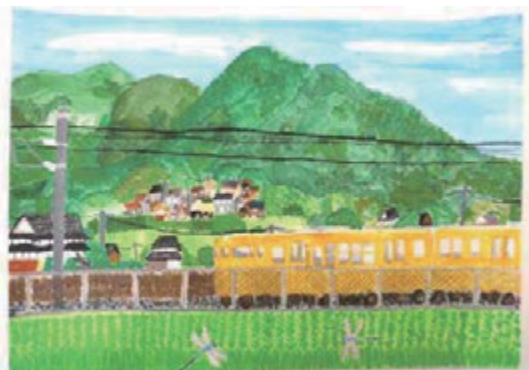
小郡小学校5年 ^{ほらだ}原田 ^{しおの}汐乃さん
「残したい山口」



陶小学校6年 ^{ふくえ}福江 ^{まほ}真歩さん
「みんないきいき 幸せあふれる山口」



鑄銭司小学校6年 ^{やました}山下 ^{うるは}詩瑠葉さん
「家から見た景色」



特別賞（中学生）

附属山口中学校 2年 ^{おおつか てんせい} 大塚 天誠さん
「ホテル舞う山口」



鴻南中学校 1年 ^{おだ ひまり} 小田 日鞠さん
「お年寄りと子供のふれあい」



附属山口中学校 2年 ^{かおもり まみ} 兼森 方実さん
「いつまでも同じ夜空」



附属山口中学校 3年 ^{こうの りな} 河野 李奈さん
「世界へ発信！～いろんな国から おいでませ～」



附属山口中学校 2年 ^{わたなべ りんか} 渡邊 凜香さん
「姫山」



1) 調査概要

(1) 調査の目的

山口市は、平成19年11月に『山口市総合計画』を策定し、10年後のめざまちの姿「ひと、まち、歴史と自然が輝く交流と創造のまち 山口」の実現に向け、諸施策に取り組んでいるところである。

次期総合計画の策定を平成30年に控え、本格的な人口減少時代や高齢社会の到来、経済のグローバル化など、本市を取り巻く環境は大きく変化している。

こうした状況を踏まえ、『市民意識調査』を次期計画策定にあたっての基礎資料とするために実施したもので、将来的な行政ニーズやこれからの市民意識がどこに向かおうとしているのかを把握することを主な目的としている。

(2) 調査対象者

山口市内に在住する18歳以上の市民約5,000人(無作為抽出)

(3) 調査方法

郵送方式・本人記入

(4) 調査期間

平成27年9月8日(火)から9月30日(水)まで

(5) 調査項目(全12問(28項目))

- | | |
|------------|----------------|
| ①回答者の属性 | ⑤今後のまちづくりについて |
| ②生活形態(充足度) | ⑥現状の市民意識 |
| ③地域・市の満足度 | ⑦人口減少・高齢社会について |
| ④誇れる地域資源 | ⑧総合計画の現状満足度 |

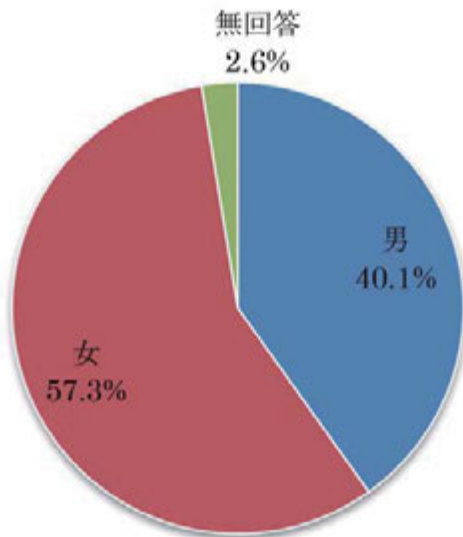
(6) 回収結果

総配布数 5,037人
回収数 2,573人
回収率 51.1%

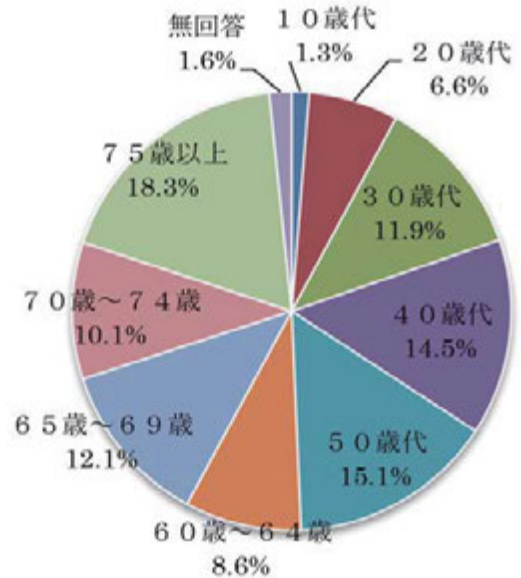
2) 集計結果(一部抜粋)

(1) 回答者属性

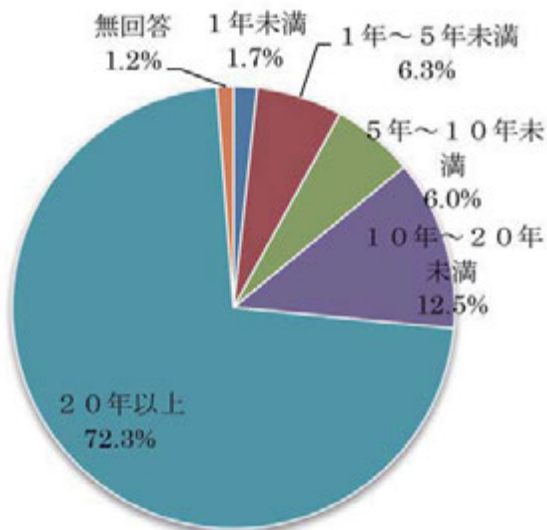
①性別 (n=2,573)



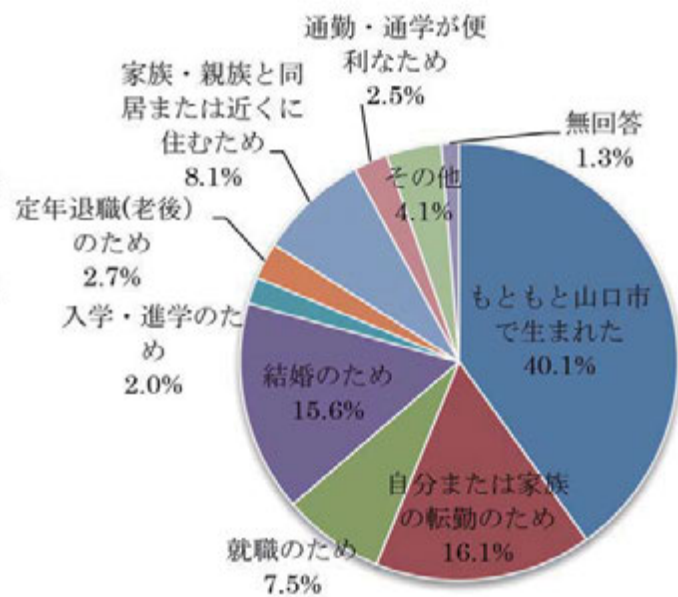
②年代別 (n=2,573)



③居住年数別 (n=2,573)



④居住理由 (n=2,623)

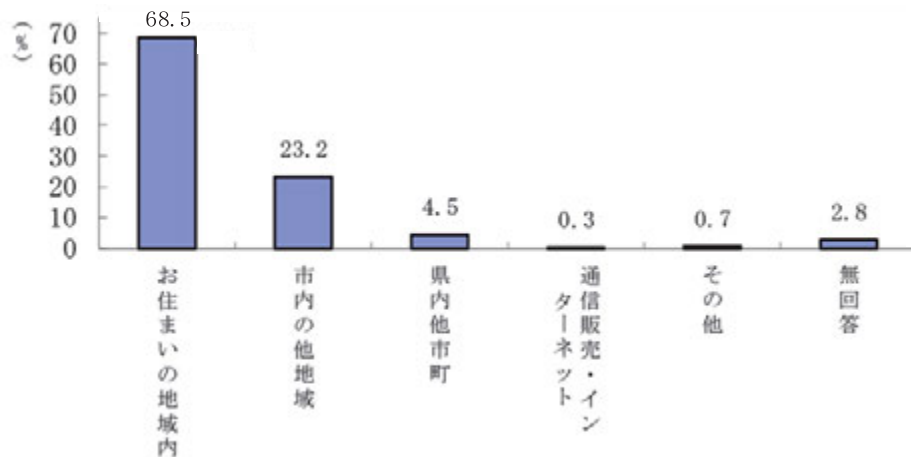


(2) 食料品、日用雑貨などの買い物場所

食料品、日用雑貨などの買い物場所については、「お住まいの地域内」が68.5%と最も高い値を示し、続いて「市内の他地域」が23.2%となっている。

地域別では「お住まいの地域内」で高い数値を示しているのが、大内の95.1%、小郡の87.4%、平川の83.8%など、「県内他市町」で高い数値を示しているのが、徳地の31.0%、阿知須の22.6%、佐山の20.0%などとなっている。

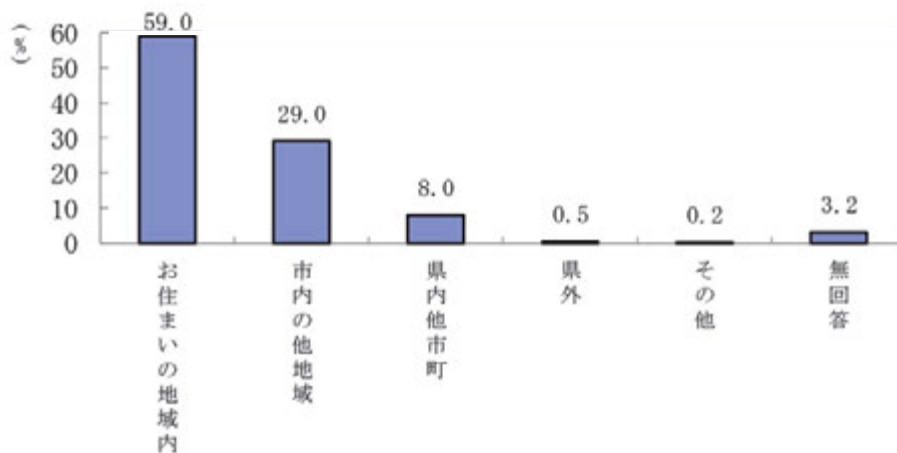
年齢別では「お住まいの地域内」で高い数値を示しているのが、75歳以上の77.1%、20歳代の72.4%となっている。また「県内他市町」で高い数値を示しているのが、50歳代の6.7%、40歳代の5.9%となっている。



(3) 通院医療機関の所在地

通院医療機関の所在地については、「お住まいの地域内」が59.0%と最も高い値を示し、続いて「市内の他地域」が29.0%となっている。

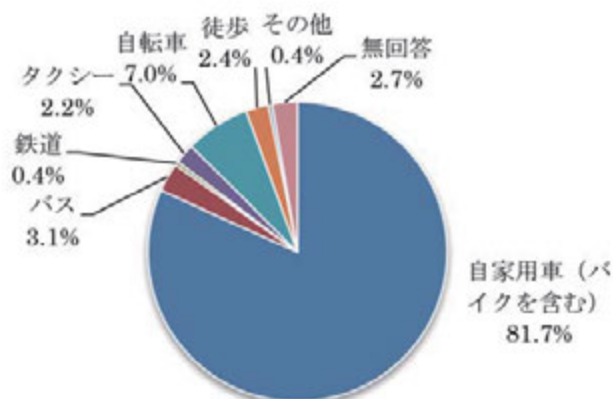
地域別では「お住まいの地域内」で高い数値を示しているのが、小郡の84.6%、湯田の74.8%、大内の70.8%など、「県内他市町」で高い数値を示しているのが、徳地の74.0%、秋穂の29.6%、阿知須の26.1%などとなっている。



(4) 買物や通勤の際の交通手段

全体では、1位が「自家用車(バイクを含む)」の81.7%、続いて「自転車」の7.0%、「バス」の3.1%、「徒歩」の2.4%、「タクシー」の2.2%、「鉄道」の0.4%、「その他」の0.4%となっている。

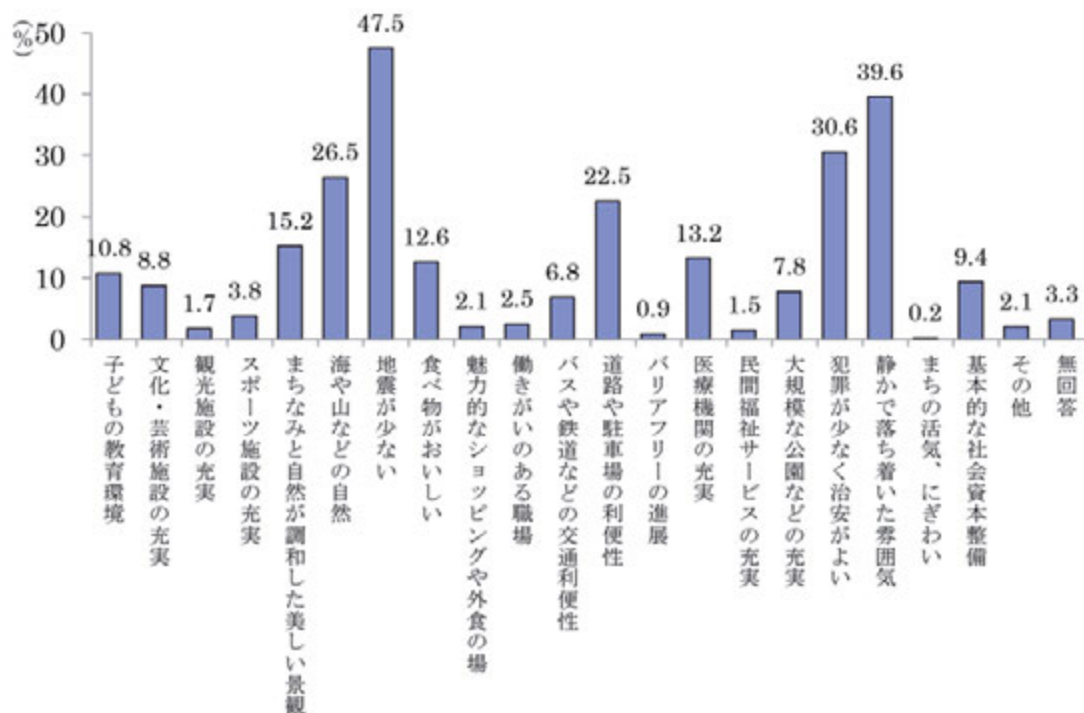
年齢別では、10歳代の「自転車」(51.5%)、「徒歩」(6.1%)が他の年齢に比べて高くなっており、75歳以上の「バス」(11.0%)、「タクシー」(9.3%)が他の年齢区分に比べて高くなっている。



(5) 山口市で暮らす上で評価していること

「山口市で暮らす上で評価していることを、3つまで選んでください」の設問に対する回答として多かったのが、1位が「地震が少ない」で47.5%、2位が「静かで落ち着いた雰囲気を持っている」で39.6%、続いて「犯罪が少なく治安がよい」が30.6%、「海や山などの自然に恵まれている」が26.5%、「道路や駐車場が整備され自動車の移動に便利である」が22.5%となっている。

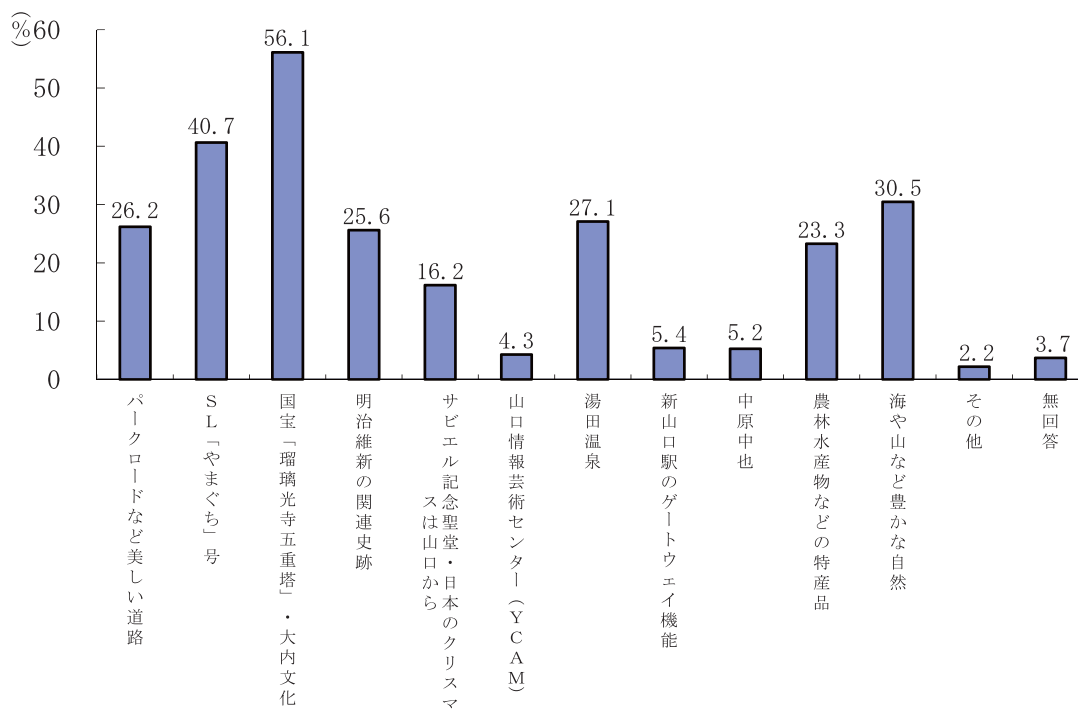
年齢別では、「地震が少ない」が10歳代、40歳代以上で1位、「静かで落ち着いた雰囲気を持っている」が20歳代、30歳代で1位となっている。



(6) 山口市の地域資源 (3つまで選択)

全国に誇れる山口市の地域資源については、最も多いのが「国宝『瑠璃光寺五重塔』・大内文化」で56.1%、次いで「SL『やまぐち』号」で40.7%、続いて「海や山など豊かな自然」で30.5%、「湯田温泉」が27.1%、「パークロードをはじめとした美しい道路」が26.2%、「明治維新の関連史跡」が25.6%、「農林水産物などの特産品」が23.3%となっている。

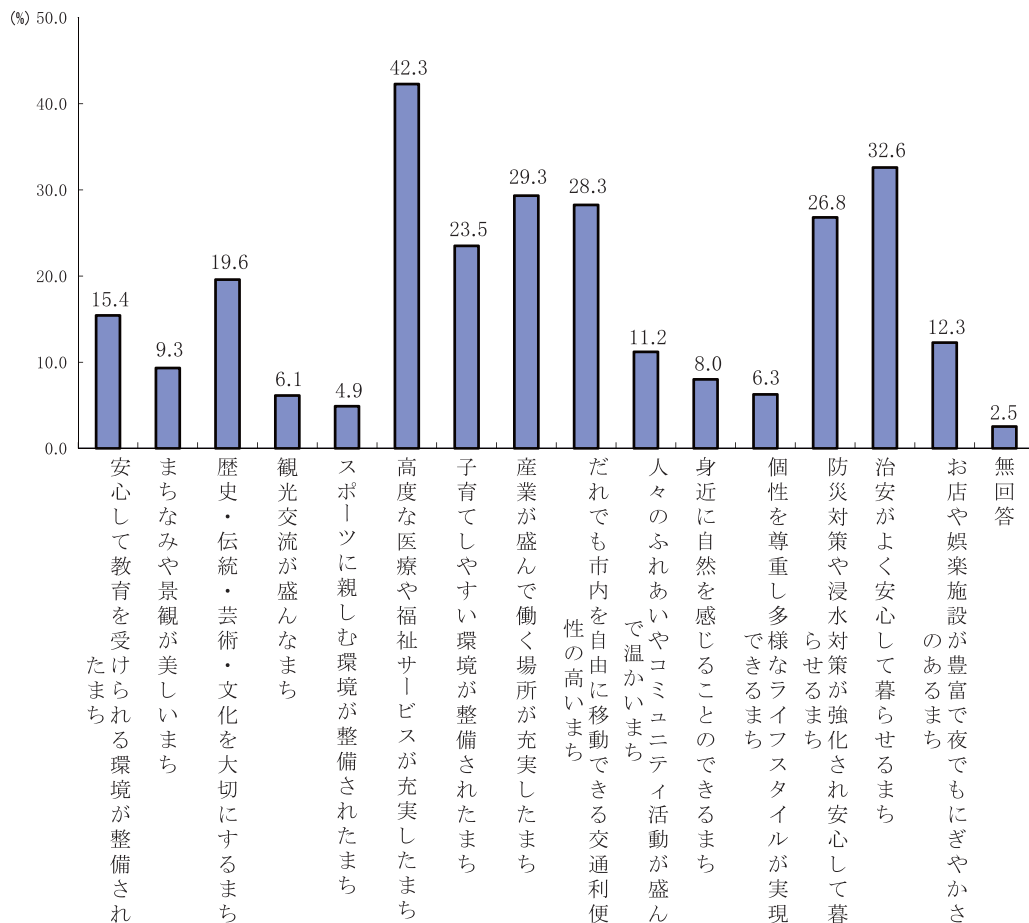
年齢別では、「SL『やまぐち』号」が30歳代以下で1位、「国宝『瑠璃光寺五重塔』・大内文化」が40歳以上で1位となっている。



(7) 今後のまちづくりに必要なこと (3つまで選択)

「今後のまちづくりに必要と思われること」についての回答は、最も多いのが「高度な医療や福祉サービスが充実したまち」で42.3%、次いで「治安がよく安心して暮らせるまち」で32.6%、続いて「産業が盛んで働く場所が充実したまち」で29.3%、「だれでも市内を自由に移動できる交通利便性の高いまち」が28.3%、「防災対策や浸水対策が強化され安心して暮らせるまち」が26.8%、「子育てしやすい環境が整備されたまち」が23.5%となっている。

年齢別では、「高度な医療や福祉サービスが充実したまち」が40歳以上で1位、「子育てしやすい環境が整備されたまち」が30歳代で1位、「だれでも市内を自由に移動できる交通利便性の高いまち」が20歳代以下で1位となっている。「お店や娯楽施設が豊富で、夜でもにぎやかさのあるまち」が20歳代で1位(20歳代は上位2項目が同率)となっている。



(8) 山口市が目指すまちの姿（記述回答）

「山口市が目指すまちの姿」についての記述意見は、全体で1,561人の記載があり記載者割合は60.7%となっている。

意見は、下表のとおり、前述の「今後のまちづくりに必要なこと」の設問区分に分類し、複数分野にわたる意見は「まちづくり全般」として分類した。その他、どの区分にも属さない意見については、「その他」として分類した。

最も多いのが、「まちづくり全般」で365件、次いで「産業が盛んで働く場所が充実したまち」が246件、「交通利便性の高いまち」が217件、「高度な医療や福祉サービスが充実したまち」が145件、「子育てしやすい環境が整備されたまち」が126件などとなっている。

区分	意見件数
1. 安心して教育を受けられる環境が整備されたまち	29
2. まちなみや景観が美しいまち	25
3. 歴史・伝統・芸術・文化を大切にするまち	51
4. 観光交流が盛んなまち	51
5. スポーツに親しむ環境が整備されたまち	15
6. 高度な医療や福祉サービスが充実したまち	145
7. 子育てしやすい環境が整備されたまち	126
8. 産業が盛んで働く場所が充実したまち	245
9. だれでも市内を自由に移動できる交通利便性の高いまち	217
10. 人々のふれあいやコミュニティ活動が盛んで温かいまち	76
11. 身近に自然を感じることのできるまち	29
12. 個性を尊重し多様なライフスタイルが実現できるまち	18
13. 防災対策や浸水対策が強化され安心して暮らせるまち	93
14. 治安がよく安心して暮らせるまち	80
15. お店や娯楽施設が豊富で、夜でもにぎやかさのあるまち	115
16. まちづくり全般	365
17. その他	34
合 計	1,714

【参考】市民の皆様が考える「今後の山口市のまちづくりに必要なこと」(上位3つ)

- 1位「高度な医療や福祉サービスが充実したまち」 42.3%
- 2位「治安がよく安心して暮らせるまち」 32.6%
- 3位「産業が盛んで働く場所が充実したまち」 29.3%

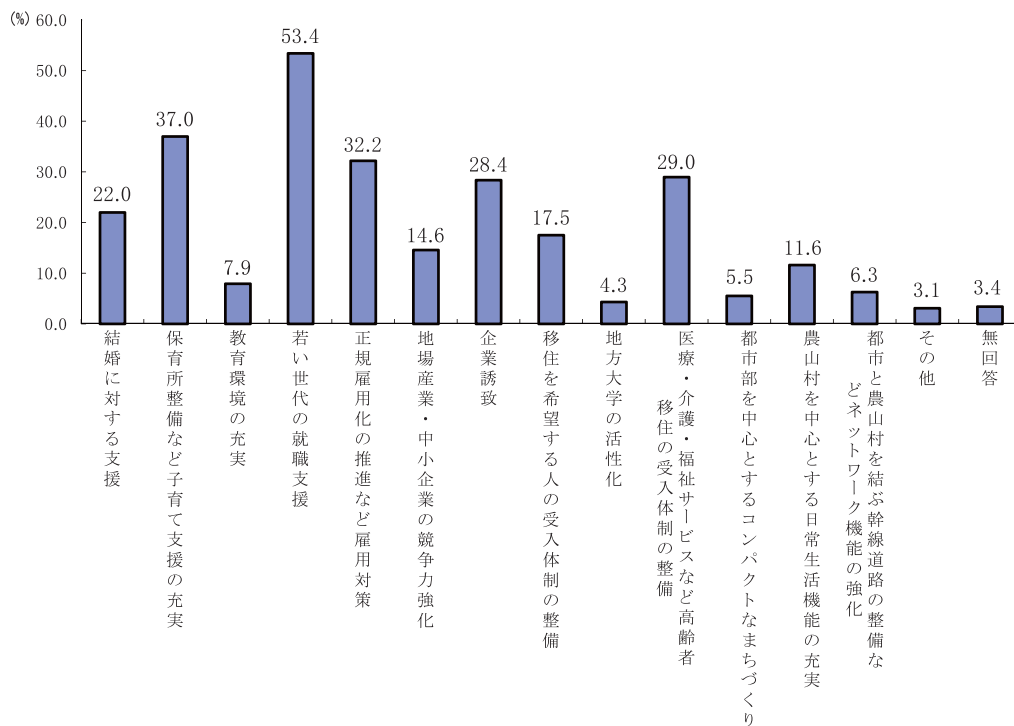
こうした、市民意識調査で高かった項目は、重点プロジェクトとして反映しております。

(9) 人口減少や高齢社会の歯止めをかけるのに必要な取り組み（3つまで選択）

「人口減少や高齢社会の歯止めをかけるのに必要な取り組み」についての回答は、最も多いのが「若い世代の就職支援」で53.4%、次いで「保育所整備など子育て支援の充実」で37.0%、続いて「正規雇用化の推進など雇用対策」が32.2%、「医療・介護・福祉サービスなど高齢者移住の受入体制の整備」が29.0%、「企業誘致」が28.4%となっている。

男女別では、「企業誘致」が男性31.1%に対して女性26.5%、「地場産業・中小企業の競争力強化」が男性18.7%に対して女性11.7%と、男性のポイントが高くなっている。

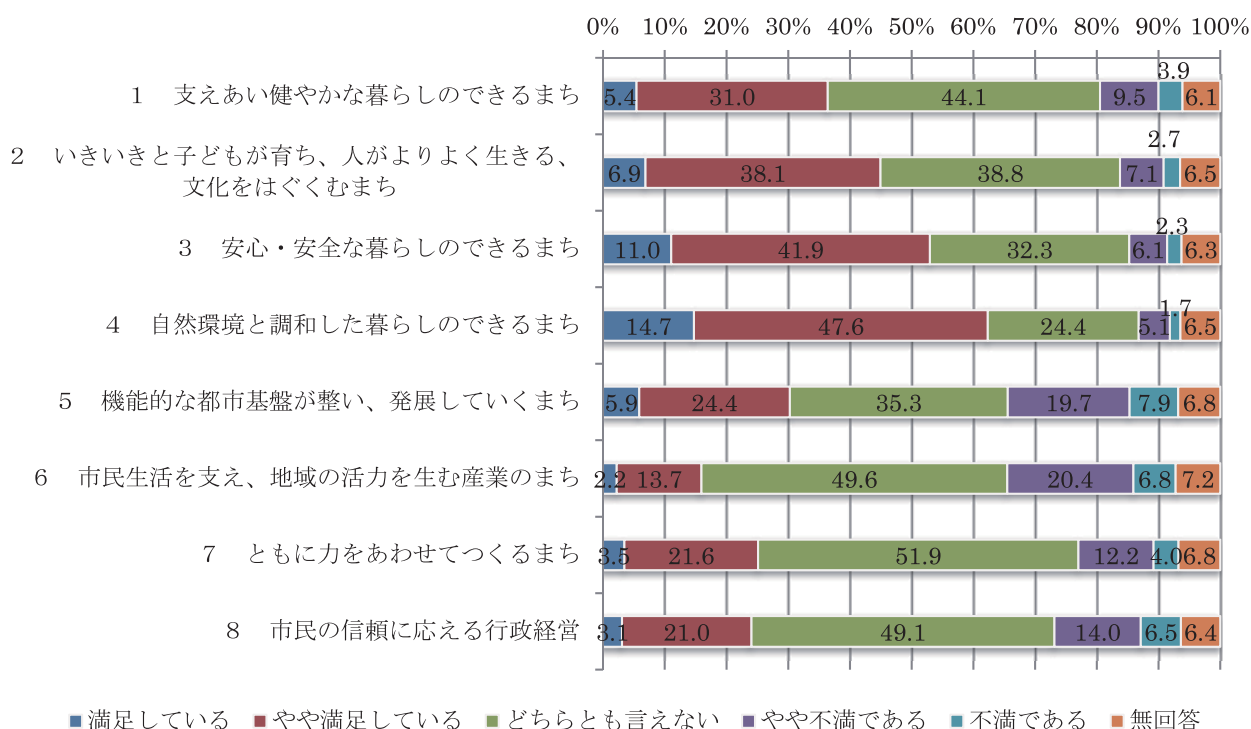
年齢別では、「若い世代の就職支援」が30歳代を除く年齢区分で1位となっている。30歳代は「保育所整備など子育て支援の充実」が1位となっている。



(10) 山口市のまちづくりに対する満足度

分野ごとに「山口市が取り組んでいるまちづくりについて、どのくらい現状に満足されていますか」と尋ねたところ、「満足している」「やや満足している」の割合が高い分野は「自然環境と調和した暮らしのできるまち」(62.3%)が最も高く、次いで「安心・安全な暮らしのできるまち」(52.9%)が高くなっている。

一方「市民生活を支え、地域の活力を生む産業のまち」(15.9%)や「市民の信頼に応える行政経営」(24.1%)は低くなっている。



1.募集期間 平成29年11月29日～平成29年12月28日

2.意見提出者 4名

意見者	意見の要旨	意見に対する市の考え方
意見者1	① 山口市は車が無くでは生活できない地域。それ故、施設には無料の駐車場を完備することを基本としてください。	① 市の公共施設の駐車場につきましては、駐車場の利用状況や民間駐車場などの周辺状況のほか、市民会館など施設の目的に応じて、受益者負担などの観点から、駐車場の無料、有料を検討する必要があると考えております。
意見者2	① 新庁舎の位置について、山口市の総合的な発展とともに中核市になれる位置(新庁舎の位置)を自らふさぐようでは大した発展は望めない。 ② 南部地域について都市計画ができていないところが多すぎる。都市計画が北部に偏っており、限界にきていることに気付いていない。 ③ 山口市の市政の相談相手が学識経験者を多く求めていることに問題があるといえます。民間の実業の経験者の意見を多く入れないと。	① ⑥新本庁舎の整備につきましては、「山口市本庁舎の整備に関する検討委員会」においてご審議いただき、本庁舎整備の必要性、本庁舎に必要な役割や機能、規模、候補地など本庁舎の整備の方向性について答申をいただきました。 新本庁舎を整備する位置につきましては、検討委員会からの答申書のほか、「移動市長室」でのご意見や、山口・小郡都市核づくりなどを踏まえまして、本市において改めて検証を行い「現在地及び中央駐車場」において整備していくことを「山口市新本庁舎整備基本方針(案)」にお示しいたしました。 ② ご指摘の内容は意見として参考にいたします。 ③ 山口市総合計画策定協議会の委員は、都市計画や防災の学識経験者をはじめ、自治会連合会、商工会議所、観光関連団体、農業協同組合、森林組合、金融機関、宅建協会、交通事業者、報道関係、教育・子育て、福祉、環境、地域連携、一般公募などから構成され、幅広い分野からご意見をいただいているところでございます。

	<p>④ このような人口の県都に責任を感じていない市政の運営者がおおすぎるところに問題がある。</p> <p>⑤ 納税者のことをもっと考えないと総合的な山口市の発展はないと思います。</p> <p>⑥ 新庁舎の位置について旧小郡町の住民に代表されるように、もっと本質的にグローバルな発展を思考しての合併ができたことを忘れて、手前みその従来 of 市政に小さく治まろうと見て取れる。 Change, Challenge が不足している。</p>	<p>④ ご指摘の内容は意見として参考にいたします。</p> <p>⑤ ご指摘の内容は意見として参考にいたします。</p> <p>① とあわせて考え方をお示ししています。</p>
意見者 3	<p>① 「本市の最上位の計画」としているが、市役所の仕事・役割のみの経営計画なのか。市民・民間事業者の力・協力、役割分担を要請する必要はないのか。</p> <p>② ・産業・雇用構造において、市域内の産業構造の実態把握が計画作成の思考ベースとして必要ではないか。(市民が他市の工場に就業しても本市の製造業としてカウントしていると思われる。)</p> <p>・安全安心意識の高まりの指摘はあるが、病院・養護・介護等の施設の充足度は他都市と比較してどうなのか、記載が欲しい。</p>	<p>① 第二次総合計画の基本構想は、地域全体で目標を共有する公共計画です。そのため議会の議決をいただき、計画を策定することとしております。</p> <p>② ・国勢調査では、「山口市内に常住する就業者総数」と「山口市内で従業する就業者総数」を産業別に調査結果として公表されています。また、経済センサスにおきましても産業別に従業者数なども公表されているところです。総合計画策定にあたりましても、こうした統計調査に基づきまして、本市の産業構造について把握しているところです。</p> <p>・県内の医療提供体制の現状につきましては、県の「山口県保健医療計画」において掲載され、また、本市の「山口市介護保険事業計画」、「山口市高齢者保健福祉計画」、「山口市元氣いきいき推進計画」では、健康福祉の各分野における本市の現状把握や、施設の整備計画など掲載しているところです。</p> <p>総合計画の策定にあたりましては、施設の充足度に関する他都市との比較ではなく、本市の医療・介護の現状を踏まえた上で、具体的な事業の検討を進めてきたところでして、市民の健康づくりを支える環境づくりとして、多世代交流や生涯</p>

	<p>・他都市との安全安心施設の密度比較の一つとして、東洋経済社の「すみよいまちランキング」におけるランクアップを計画の目標の一つにすることを提案します。</p> <p>③ 時代の潮流や課題の項目において、市民性、教育水準、教育機関、文化水準などの課題が欠落している。教育分野では、市内の高校に電気・化学・建築・土木科がない。設置を希望・促進はしないのか。</p> <p>④ 「連携中枢都市圏の形成」、「高次都市機能の集積・強化」について、内容等を具体的に示す必要がある。</p> <p>⑤ 生産性の高い産業の集積・強化、とりわけ製造業で経済活動を引っ張る発想はできないのか。</p>	<p>活躍の場づくりなどをプロジェクトに位置づけたところであります。</p> <p>なお、本市の医療や福祉の充実度につきましては、今後も、市民アンケート等を通じ把握してまいり、必要な施策の展開を検討してまいります。</p> <p>・ご提案の「すみよいまちランキング」の指標設定でございますが、第二次総合計画では、実際に現在本市にお住まいの方が、どの程度住み良いと感じていただいているのか、市民アンケートを通じた「ふるさと指標」をこの度、新たに目標数値として設定いたしました。</p> <p>なお、全国都市との相対的な比較が有効な本市の認知度を測る指標といたしまして、「文化・スポーツ・観光なら山口」プロジェクトにおいて、ブランド総合研究所による「地域ブランド調査」の市区町村ランキングのランクアップを設定する予定としております。</p> <p>③ 本県は、県土構造として中小都市が分散する分散型都市構造にあり、県立高校の学科設置につきましては、県内の産業構造に基づき県において進められてきました。今後の社会情勢の変化などを注視し、必要に応じて県に働きかけしていくことも検討してまいります。</p> <p>④ 「連携中枢都市圏の形成」、「高次都市機能の集積・強化」につきましては、「重点プロジェクト1 広域県央中核都市づくりプロジェクト」の中で取組みを掲載しております。なお、ご意見を伺い、用語の説明について、用語集において補足説明をさせていただきます。</p> <p>⑤ ご指摘のとおり、生産性の高い産業の集積・強化を目指し、新しい産業団地の整備をはじめ企業誘致の取組みを強化していくこととしております。また、地方都</p>
--	--	--

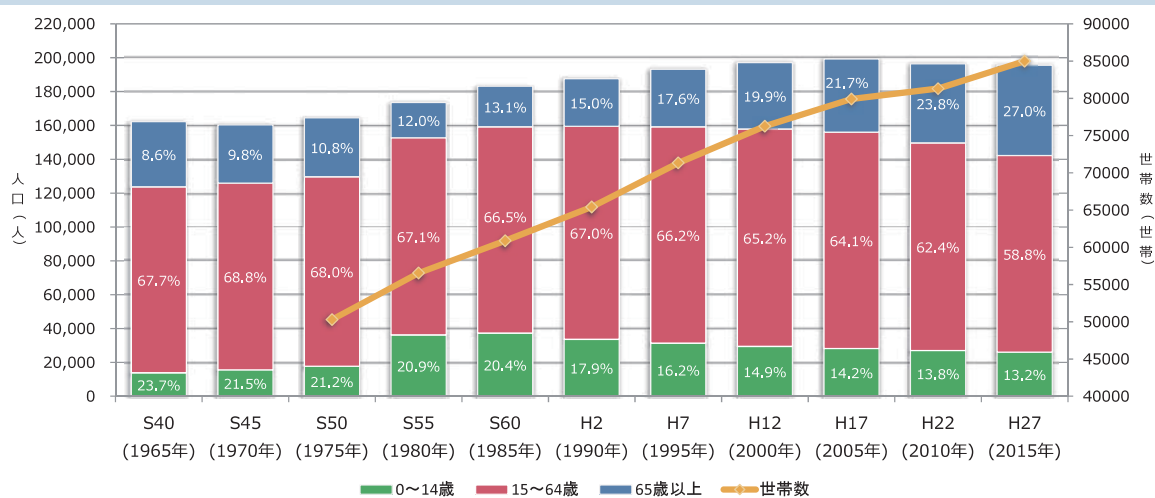
	<p>⑥ 山口市に「豊かさ」があるのか。(山口には自然しかない)有りすぎて量より質への転換と受け止められる。質の向上は当然のこと。あえて強調する必要があるのか。</p> <p>⑦ 「交流」とは行き来、一定時間ごとに交互に逆向に流れること。「人と人」は交流しない。「ふれあう」「仲良くする」などの表現が抜けていないか。</p> <p>「地域と地域」も交流しない。地域の人が他地域へ行きやすいように道路や交通手段を整備する意味だと思う。</p> <p>「都市と都市」も都市間の無駄な競争を避け、機能・役割分担、仲良くして共に発展しようという意味ではないか。であれば、表現が不十分と思う。</p> <p>⑧ 交流人口の規模が市民経済・市民所得にどの程度の影響・寄与しているのか説明がほしい。</p> <p>また、交流人口の定義が必要ではない</p>	<p>市における若者の雇用の大半を占めるサービス業の振興も進めることとしています。</p> <p>⑥ 「豊かさ」につきましては、本市における自然、歴史、文化、産業、まち、人材などの本市の地域資源の多様性こそが本市の豊かさの源であり、これらを生かしていくこと、そして、市民一人ひとりの価値や多様性を大切にし、共感することで、豊かな地域社会を築いてまいりたいと考えております。</p> <p>こうしたことから、豊かさの価値観、豊かさの「ものさし」をボリュームからクオリティへ転換していくことを目指していくこととしております。</p> <p>⑦ 交流には、人や地域などがつながり、地域の産業や文化を活性化させ、経済効果を生み出す3つの交流のあり方を定義付けております。</p> <p>まず、「人と人」の交流として、あらゆる世代や団体等が、見守り、助け合い、共に地域の課題を解決していく交流のまちです。</p> <p>次に、「地域と地域」の交流として、市内21地域が、それぞれの地域特性や個性を高め、地域間交流やネットワークの強化を図ることで、市内どの地域でも住みよいかたちとなる交流のまちです。</p> <p>さらに、「都市と都市」の交流として、近隣都市や海外との連携を図り、活力ある経済活動や高次の都市機能が確保された交流のまちです。</p> <p>こうした交流が、重層的につながるまちを目指しているところです。</p> <p>⑧ 交流人口増大による経済効果は観光庁において試算されており、定住人口1人当たりの年間消費額(124万円)は、宿泊2.6人分又は、日帰り旅行者8.3人分</p>
--	---	--

	<p>か。(通勤・通学で本市に流入する人も含めていないか)</p> <p>⑨ 「佐山」や「鑄銭司」の工業団地は人口集中地域から遠く離れている。団地の近くに公営住宅などつくる用意はあるのか。人口集中地域の宮野・大内・小鯖に企業誘致を積極的に進める計画がほしい。</p> <p>⑩ 技能・職業訓練所や土木施工資格の取得教育塾等の誘致などはしないのか。</p> <p>⑪ 21地域の各拠点から1km以内に新規立地する企業の固定資産税5年間免除等の優遇策で拠点集中化を誘導すべきと思う。同様に、阿東地域、徳地地域など過疎化が進む地域について、「移住後5年間の固定資産税免除」、「空き家への転居は家賃補助」などどうか。</p> <p>⑫ 市内の観光資源は、温泉、大内遺産、維新遺産のみ、自然遺産は皆無に近い。直ちにできることは、「継続で四季変わる植栽や香り彩で町並みや地域を形つくる」運動を先導する計画を提案したい。</p> <p>⑬ 地域別計画について、21地域それぞれ</p>	<p>に相当するものとされています。</p> <p>本市では、こうした試算を踏まえたうえで、人口減少時代における地域経済の縮小を交流人口の増大による経済効果で置き換えることも可能であると考えおり、交流人口の増加をKGIとして設定しております。</p> <p>また、交流人口は、他都市やこれまでとの比較が可能となります県の「観光客動態調査」の数字を用いております。</p> <p>なお、この「観光客動態調査」は、通勤・通学などは含めておりません。</p> <p>⑨ 新たな産業団地の整備地につきましては、企業誘致及び産業集積可能性調査や産業団地の適地調査の結果に基づきまして、南部地域の鑄銭司において整備することとしております。</p> <p>また、企業誘致につきましては、現在も本市全体で進めており、第二次総合計画におきましても引き続き取り組んでまいります。</p> <p>⑩ 都市機能や教育機能等の集積につきましては、第二次総合計画におきましても引き続き取り組んでまいります。</p> <p>⑪ 阿東や徳地地域をはじめとする人口減少が進展する地域におきましては、移住・定住の施策を進めることとしており、ご提案の内容につきましては、具体的な事業を実施する際に参考にさせていただきます。</p> <p>⑫ ご指摘の内容は意見として承ります。</p> <p>⑬ 地域別計画は、地域が主体となって作成</p>
--	---	---

	<p>に、山口市のなかでの位置づけ、役割の記載がない。インフラ特に道路の整備が計上されていない。宮野地域は、県道204号の早期整備が必要。県立大学の跡地利用について、県立の技術系高校の新設、野田学園の移転、宮野中と大殿中の合併中学を提案したい。</p>	<p>したまちづくりの計画であり、地域づくりの方向性として、総合計画に記載し、位置づけたものです。また、ご提案の県立大学跡地利用につきましては、「安全安心のまち」プロジェクトにおきまして位置付けているところでございます。</p>
意見者4	<p>① 第二次山口市総合計画（素案）では、山口市の将来人口推計について、独自推計を採用されています。しかしながら、山口市立地適正化計画では、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計をもとに協議が進んでいると思います。異なる人口推計で、計画間の整合性は図られるのか。</p> <p>② 地域別計画のうち「吉敷地域」では、「オリンピック金メダリストの輩出」とありますが、まだ評価の固まっていない人物であり、今後も現在と同じ評価を得られる保証がないので、表現を削除してほしい。</p> <p>③ 施策3-1 防災対策の充実のうち、基本</p>	<p>① ご指摘のとおり、山口市立地適正化計画では、人口等の将来見通しは、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が公表している将来人口推計の値を使用しています。</p> <p>これは、国において、「人口等の将来見通しは（中略）社人研が公表している将来人口推計の値を採用すべきであり、仮に市町村が独自の人口推計を行うとしても、社人研の将来推計人口の値を参酌すべきである」とされていることによるものです。</p> <p>一方、総合計画では、社人研による将来推計人口の値ではなく、本市独自の人口推計を行っております。総合計画では、人口構造の変化を地域ごとに捉え、きめ細かな政策立案が必要となります。</p> <p>こうしたことから、社人研による本市全体の将来人口の推計を使用するのではなく、本市独自の人口推計を使用しているところでございます。</p> <p>なお、立地適正化計画の策定にあたっては、上位計画である総合計画との整合を図っております。</p> <p>② ご指摘の内容は意見として参考にいたします。</p> <p>③ 自主防災組織率は、単位自治会等を母体</p>

	<p>事業2において「自主防災組織率」をKPIに設定されている。最終目標が71%とのことだが、100%とすべきである。達成できそうな目標値を設定する項目ではないと考える。地域防災力を向上させないと、次の大災害で高齢者等の避難対応等で不測の事態を招く。</p>	<p>とした組織のうち、自主防災組織として認定した組織の割合で、自主防災組織の認定を受けることで、設置や運営に関する補助制度を利用することができます。</p> <p>一方で、認定は受けずに自主防災等の活動をされている自治会等もありますので、市として、自主防災組織の結成を促すことはあっても、必ずしも認定を求めものではないと考えています。</p> <p>また、地域防災力の向上に関しましては、自主防災組織に限らず自治会等による活動も重要と考えていますので、外部団体や県等による「自助」「共助」の考え方ははじめとした防災研修等を、組織の形に関わらず市内全域で実施してきたところです。</p> <p>なお、成果指標の目標71%につきましては、より身近な単位自治会等における活動の目安として設定しています。自主防災組織認定を希望されない自治会等もごございますので、組織率の状況をみながら、適宜見直しを行うこととしております。</p>
--	---	--

人口と世帯数の推移



	S40 (1965年)	S45 (1970年)	S50 (1975年)	S55 (1980年)	S60 (1985年)	H2 (1990年)	H7 (1995年)	H12 (2000年)	H17 (2005年)	H22 (2010年)	H27 (2015年)
総人口	162,219	160,347	164,470	173,590	183,149	187,793	193,172	197,115	199,297	196,628	197,422
65歳以上	38,500	34,438	34,803	20,858	23,964	28,136	33,930	39,212	43,297	46,709	53,325
15~64歳	109,836	110,273	111,917	116,463	121,830	125,809	127,841	128,441	127,766	122,614	116,106
0~14歳	13,883	15,636	17,750	36,259	37,351	33,667	31,373	29,459	28,221	27,045	26,118
世帯数	-	-	50,294	56,549	60,880	65,415	71,327	76,257	79,909	81,299	84,994

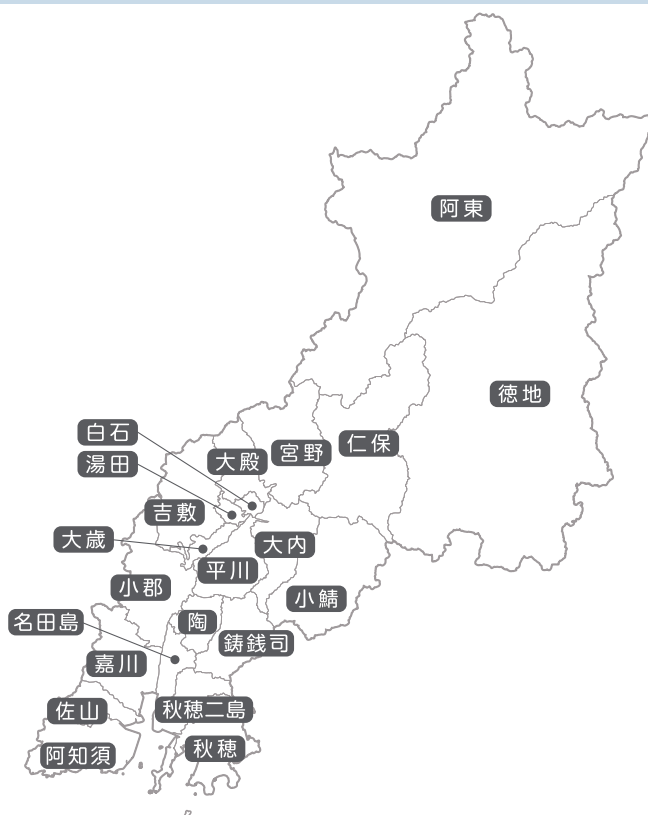
国勢調査

21地域別人口の推移

地 域	S40 (1965年)	S45 (1970年)	S50 (1975年)	S55 (1980年)	S60 (1985年)	H2 (1990年)	H7 (1995年)	H12 (2000年)	H17 (2005年)	H22 (2010年)	H27 (2015年)
大 殿	16,340	15,894	13,801	12,312	11,671	10,266	9,103	8,826	8,059	7,496	7,566
白 石	16,583	16,137	12,420	10,622	9,726	10,514	10,269	9,399	10,064	9,941	10,390
湯 田	12,142	11,821	15,129	14,599	15,076	14,025	14,137	13,846	13,430	12,588	12,981
仁 保	4,262	3,884	3,720	4,026	4,239	4,104	3,904	3,849	3,721	3,579	3,256
小 鱈	3,129	2,966	3,000	3,470	4,779	5,067	5,428	5,310	5,066	4,768	4,706
大 内	5,973	6,794	8,340	11,708	14,220	15,991	18,341	20,439	21,494	22,158	22,878
宮 野	6,947	7,610	9,567	11,894	12,863	13,217	13,851	14,549	15,343	15,509	15,136
吉 敷	3,577	4,626	5,505	7,319	8,549	10,602	12,195	13,741	14,494	14,450	14,823
平 川	3,316	5,892	8,389	10,596	13,275	14,859	16,307	17,531	19,380	19,479	20,402
大 歳	4,674	4,516	5,595	7,182	8,023	9,442	10,745	11,969	12,842	13,036	13,481
陶	2,815	2,558	2,508	2,515	2,715	2,804	2,889	2,772	2,733	2,688	2,584
鑄銭司	3,209	3,189	3,230	3,379	3,809	3,773	3,755	3,571	3,369	3,153	3,064
名田島	2,260	2,114	1,998	1,945	1,889	1,783	1,689	1,651	1,504	1,410	1,290
秋穂二島	4,040	3,846	3,652	3,577	3,547	3,382	3,188	2,999	2,827	2,573	2,333
嘉 川	6,877	6,536	6,521	6,824	7,016	6,932	7,136	7,130	7,055	6,874	6,533
佐 山	2,833	2,658	2,724	2,776	2,816	2,700	2,642	2,865	2,876	2,833	2,704
小 郡	15,486	16,063	17,210	18,832	20,116	21,772	22,881	23,107	23,009	24,250	25,502
秋 穂	9,611	9,121	9,179	9,060	8,997	8,481	8,149	7,941	7,697	7,262	6,680
阿知須	8,197	8,035	8,137	8,327	8,407	8,385	8,300	8,823	9,031	9,176	9,426
徳 地	14,193	12,506	11,638	11,137	10,571	9,753	9,130	8,375	7,683	6,771	5,915
阿 東	15,755	13,581	12,207	11,490	10,845	9,941	9,133	8,422	7,620	6,634	5,772
合 計	162,219	160,347	164,470	173,590	183,149	187,793	193,172	197,115	199,297	196,628	197,422

(資料) 国勢調査

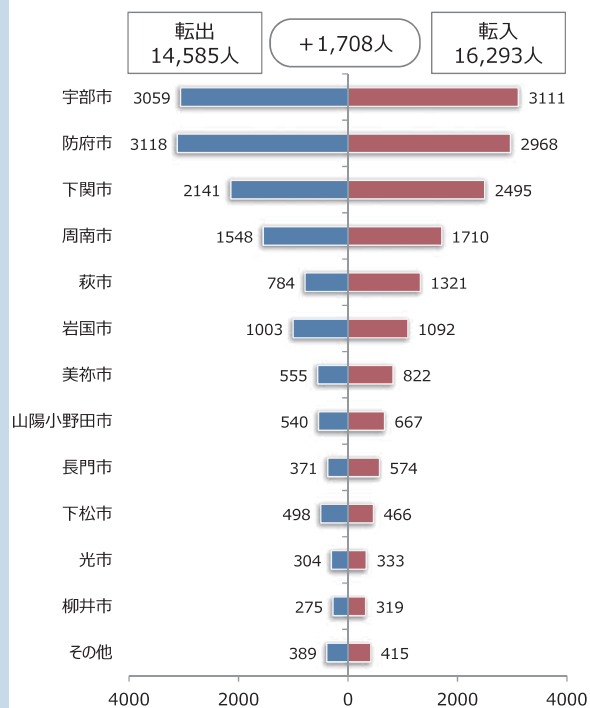
市内21地域の概況



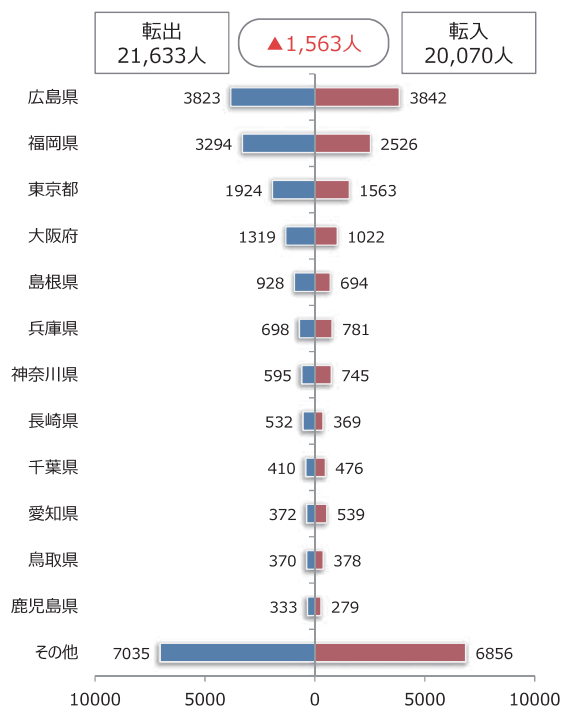
地域	面積	平成27年人口 (国勢調査)
大殿	13.07km ²	7,566人
白石	4.71km ²	10,390人
湯田	4.09km ²	12,981人
仁保	72.85km ²	3,256人
小鯖	43.83km ²	4,706人
大内	24.92km ²	22,878人
宮野	38.42km ²	15,136人
吉敷	26.67km ²	14,823人
平川	19.61km ²	20,402人
大歳	10.82km ²	13,481人
陶	11.52km ²	2,584人
鑄銭司	20.42km ²	3,064人
名田島	8.93km ²	1,290人
秋穂二島	16.15km ²	2,333人
嘉川	28.87km ²	6,533人
佐山	12.02km ²	2,704人
小郡	33.40km ²	25,502人
秋穂	24.09km ²	6,680人
阿知須	25.49km ²	9,426人
徳地	290.35km ²	5,915人
阿東	293.08km ²	5,772人

県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)

【県内の転出入状況】

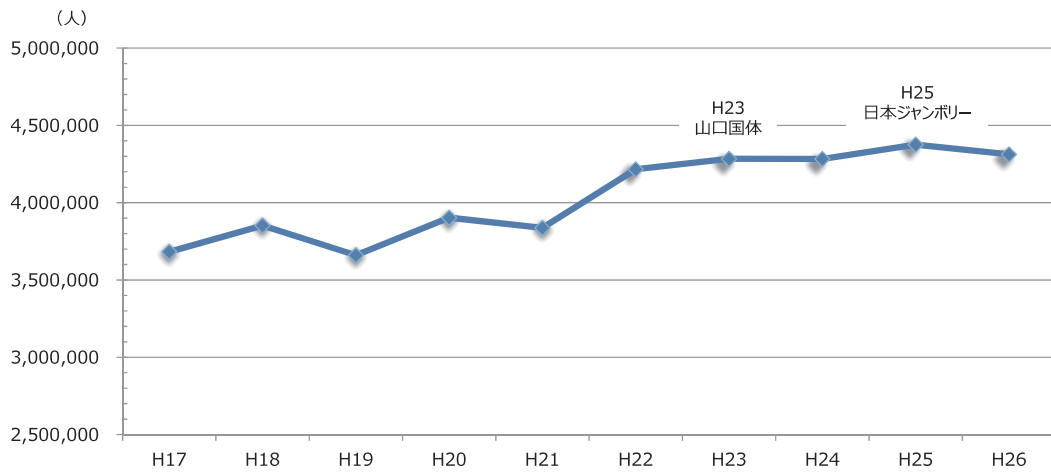


【県外の転出入状況】



(資料) 住民基本台帳

交流人口の推移

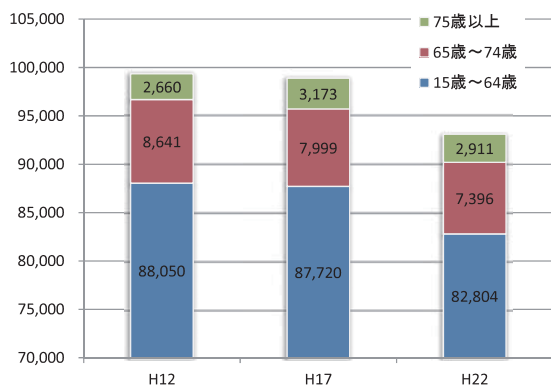


年度	H17	H18	H19	H20	H21
交流人口 (人)	3,682,430	3,852,610	3,660,183	3,902,880	3,837,346
年度	H22	H23	H24	H25	H26
交流人口 (人)	4,216,384	4,284,090	4,283,248	4,375,749	4,312,787

(資料) 山口市観光客動態調査

就業人口の推移

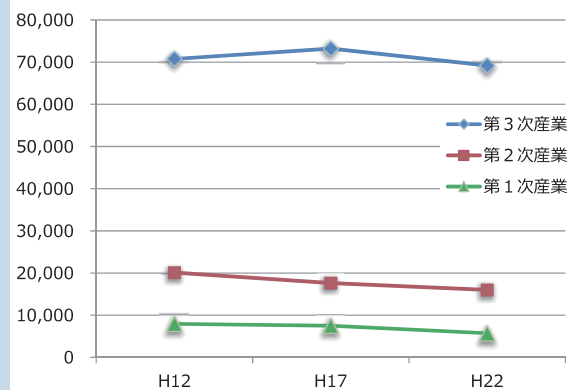
年齢別就業者数の推移



	H12	H17	H22
15歳～64歳	88,050	87,720	82,804
65歳～74歳	8,641	7,999	7,396
75歳以上	2,660	3,173	2,911

(資料) 国勢調査

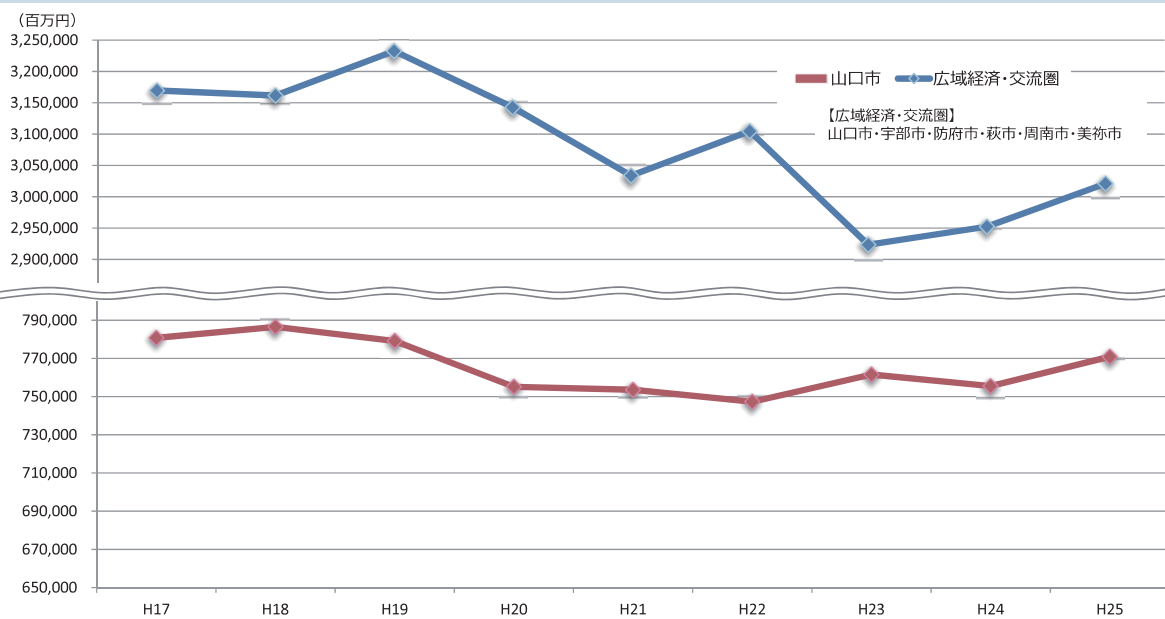
産業別就業人口の推移



	H12	H17	H22
第1次産業	7,954	7,502	5,709
第2次産業	20,102	17,616	15,986
第3次産業	70,762	73,212	69,191

(資料) 国勢調査

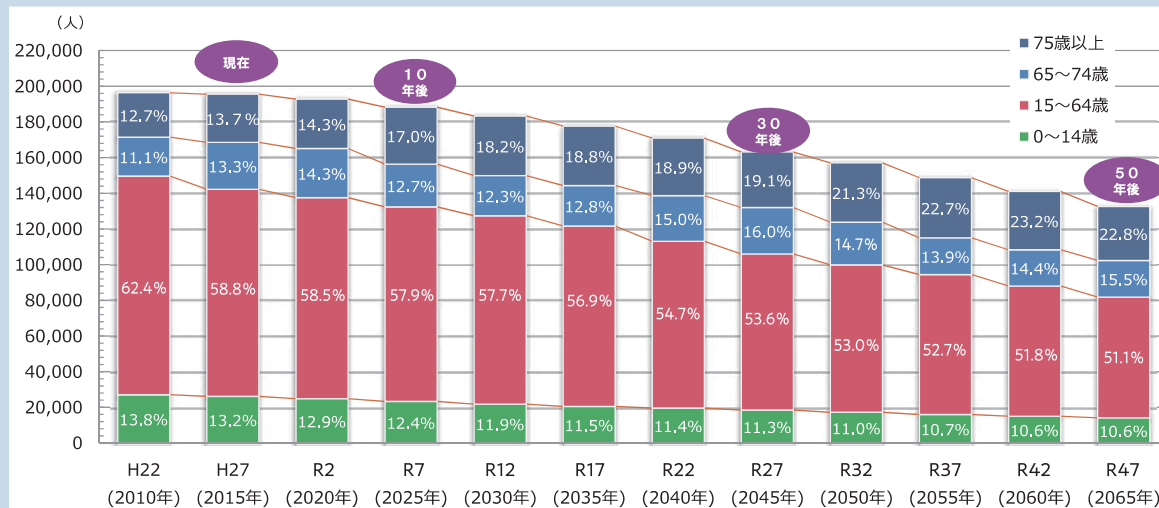
広域経済・交流圏及び市内総生産の推移



	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
広域経済・交流圏	3,169,551	3,161,582	3,232,558	3,142,733	3,033,752	3,104,624	2,923,534	2,952,389	3,021,008
山口市	780,752	786,556	779,138	755,105	753,540	747,254	761,576	755,494	770,898

(資料) 山口県市町民経済計算

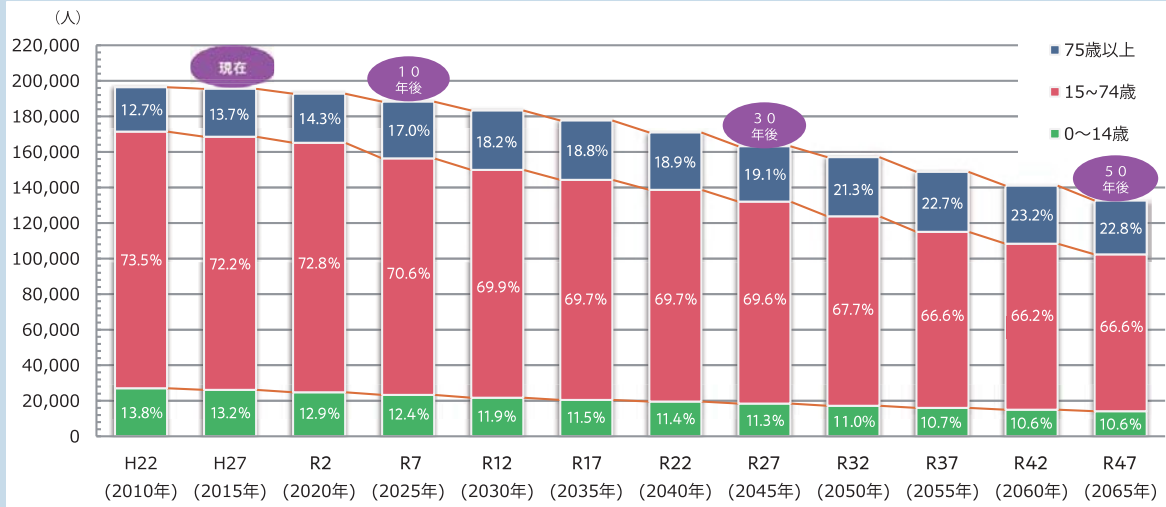
将来人口推計



	H22 (2010年)	H27 (2015年)	R2 (2020年)	R7 (2025年)	R12 (2030年)	R17 (2035年)	R22 (2040年)	R27 (2045年)	R32 (2050年)	R37 (2055年)	R42 (2060年)	R47 (2065年)
総人口	196,628	197,422	192,749	188,269	183,264	177,655	170,930	163,197	156,025	148,747	141,004	132,619
75歳以上	24,907	26,974	27,623	31,929	33,343	33,335	32,223	31,134	33,220	33,692	32,664	30,259
65~74歳	21,802	26,351	27,553	23,985	22,520	22,693	25,600	26,048	22,983	20,623	20,296	20,494
15~64歳	122,614	116,106	112,765	109,034	105,652	101,146	93,568	87,541	82,643	78,452	73,066	67,753
0~14歳	27,045	26,118	24,808	23,321	21,748	20,480	19,540	18,438	17,179	15,980	14,978	14,113

平成22年、平成27年の総人口は年齢不詳を含む令和2年以降は、本市の独自推計

将来人口推計 15歳から74歳を新たな現役世代として捉えた場合

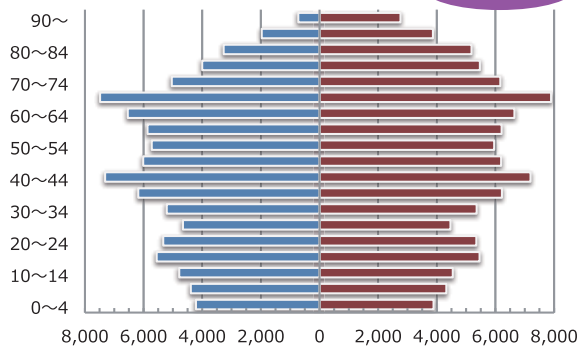


	H22 (2010年)	H27 (2015年)	R2 (2020年)	R7 (2025年)	R12 (2030年)	R17 (2035年)	R22 (2040年)	R27 (2045年)	R32 (2050年)	R37 (2055年)	R42 (2060年)	R47 (2065年)
総人口	196,628	197,422	192,749	188,269	183,264	177,655	170,930	163,197	156,025	148,747	141,004	132,619
75歳以上	24,907	26,974	27,623	31,929	33,343	33,335	32,223	31,134	33,220	33,692	32,664	30,259
15~74歳	144,416	142,457	140,318	133,019	128,172	123,839	119,168	113,589	106,626	99,075	93,362	88,247
65~74歳	21,802	26,351	27,553	23,985	22,520	22,693	25,600	26,048	22,983	20,623	20,296	20,494
15~64歳	122,614	116,106	112,765	109,034	105,652	101,146	93,568	87,541	82,643	78,452	73,066	67,753
0~14歳	27,045	26,118	24,808	23,321	21,748	20,480	19,540	18,438	17,179	15,980	14,978	14,113

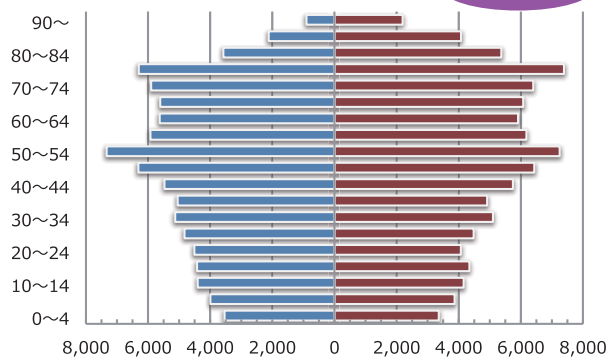
平成22年、平成27年の総人口は年齢不詳を含む令和2年以降は、本市の独自推計

人口ピラミッド(男女別・年代別)

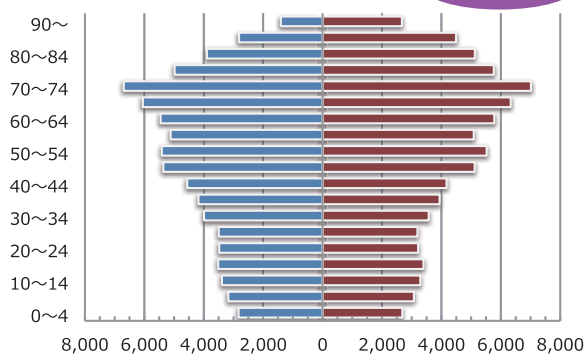
2015年(H27) 現在



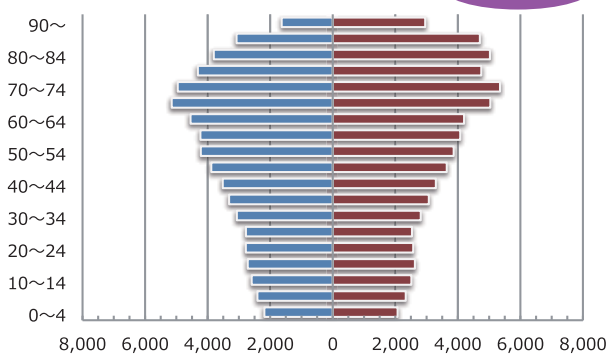
2025年(R7) 10年後



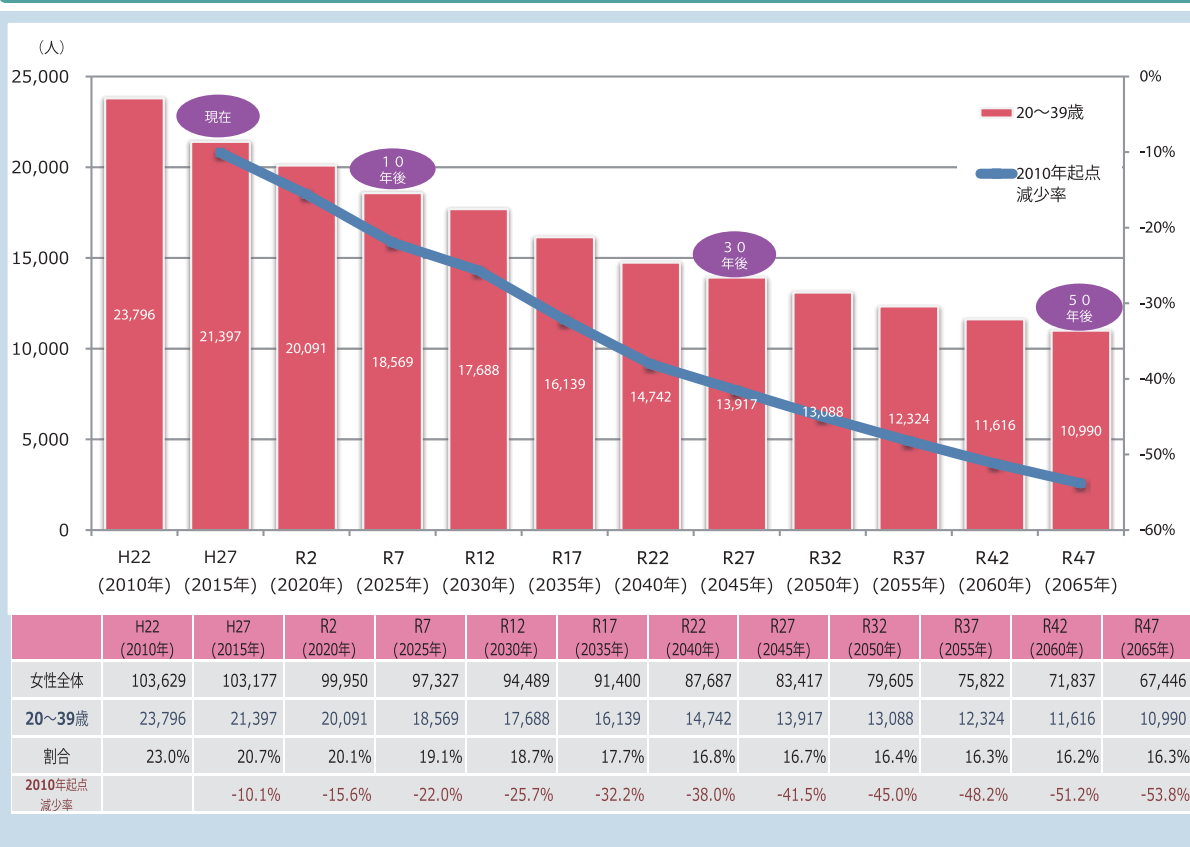
2045年(R27) 30年後



2065年(R47) 50年後

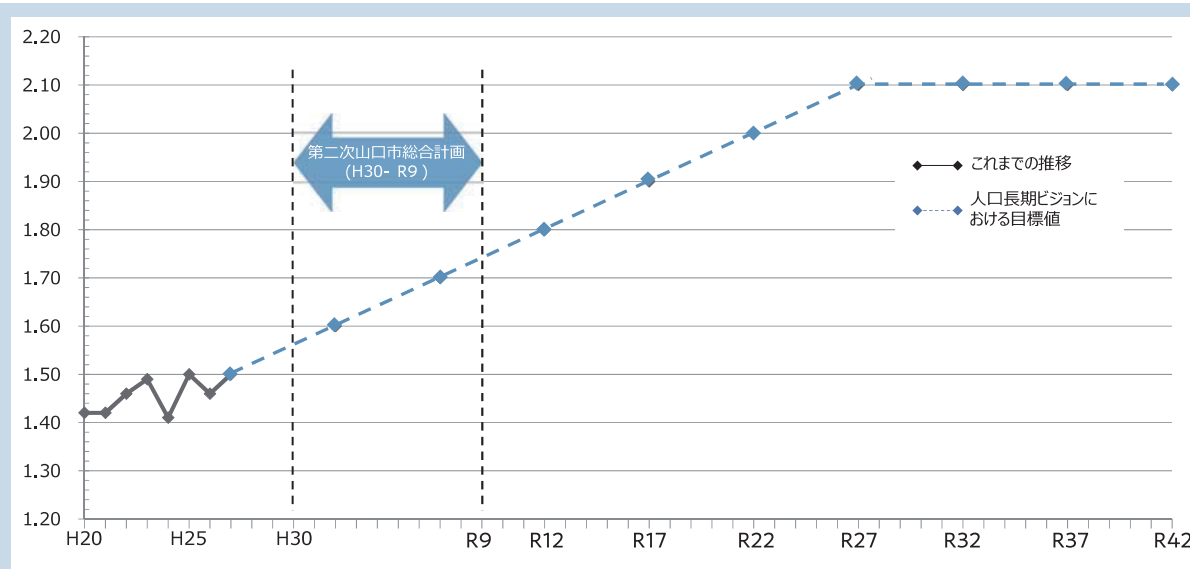


20～30代の女性人口の将来推計



	H22 (2010年)	H27 (2015年)	R2 (2020年)	R7 (2025年)	R12 (2030年)	R17 (2035年)	R22 (2040年)	R27 (2045年)	R32 (2050年)	R37 (2055年)	R42 (2060年)	R47 (2065年)
女性全体	103,629	103,177	99,950	97,327	94,489	91,400	87,687	83,417	79,605	75,822	71,837	67,446
20～39歳	23,796	21,397	20,091	18,569	17,688	16,139	14,742	13,917	13,088	12,324	11,616	10,990
割合	23.0%	20.7%	20.1%	19.1%	18.7%	17.7%	16.8%	16.7%	16.4%	16.3%	16.2%	16.3%
2010年起点減少率		-10.1%	-15.6%	-22.0%	-25.7%	-32.2%	-38.0%	-41.5%	-45.0%	-48.2%	-51.2%	-53.8%

合計特殊出生率の推移と人口長期ビジョンにおける目標値



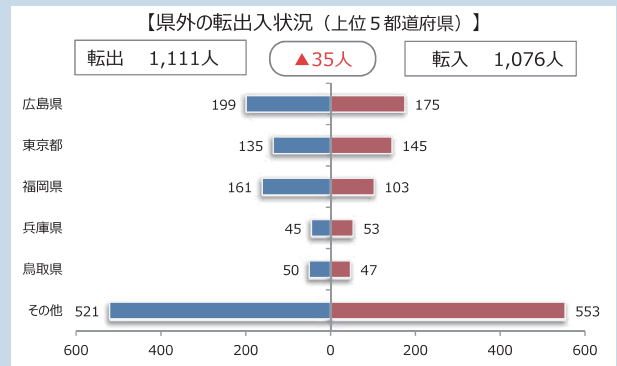
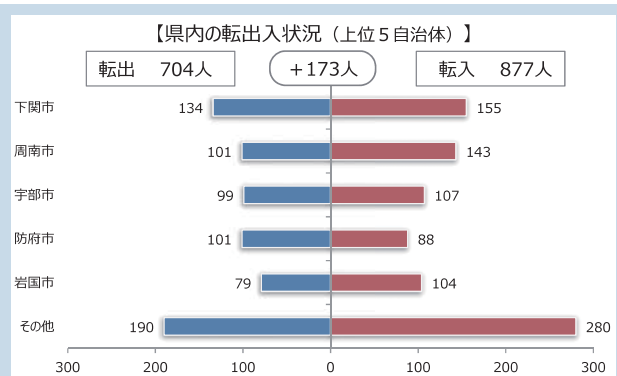
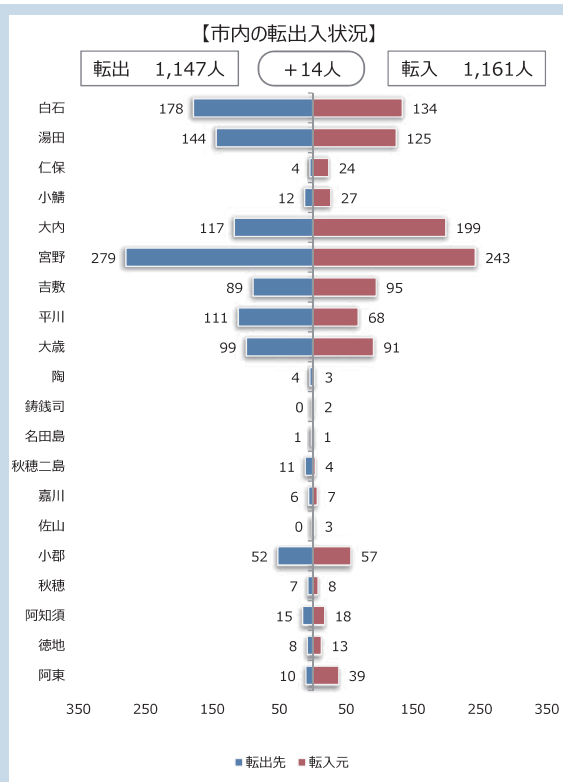
これまでの推移と人口長期ビジョンにおける目標値

(資料) 厚生労働省「人口動態調査」

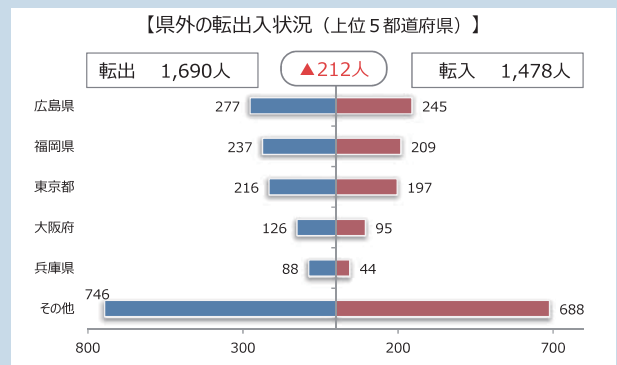
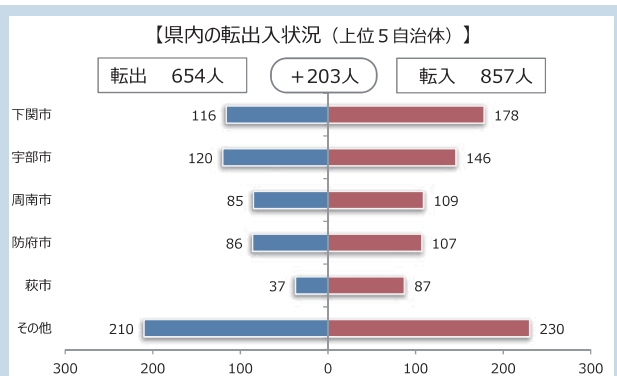
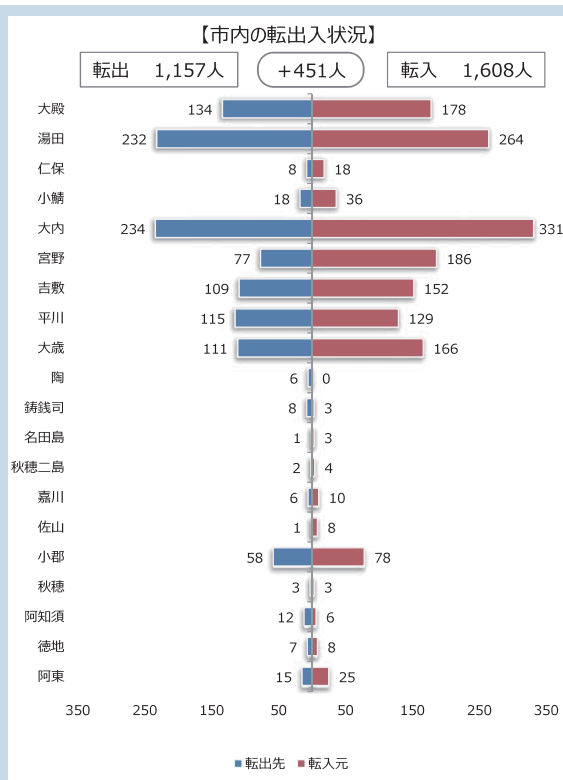
2008年 (H20)	2009年 (H21)	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)	2035年 (R17)	2040年 (R22)	2045年 (R27)	2050年 (R32)	2055年 (R37)	2060年 (R42)
1.42	1.42	1.46	1.49	1.41	1.50	1.46	1.50	1.60	1.70	1.80	1.90	2.00	2.10	2.10	2.10	2.10

↑
人口長期ビジョンの最終目標値

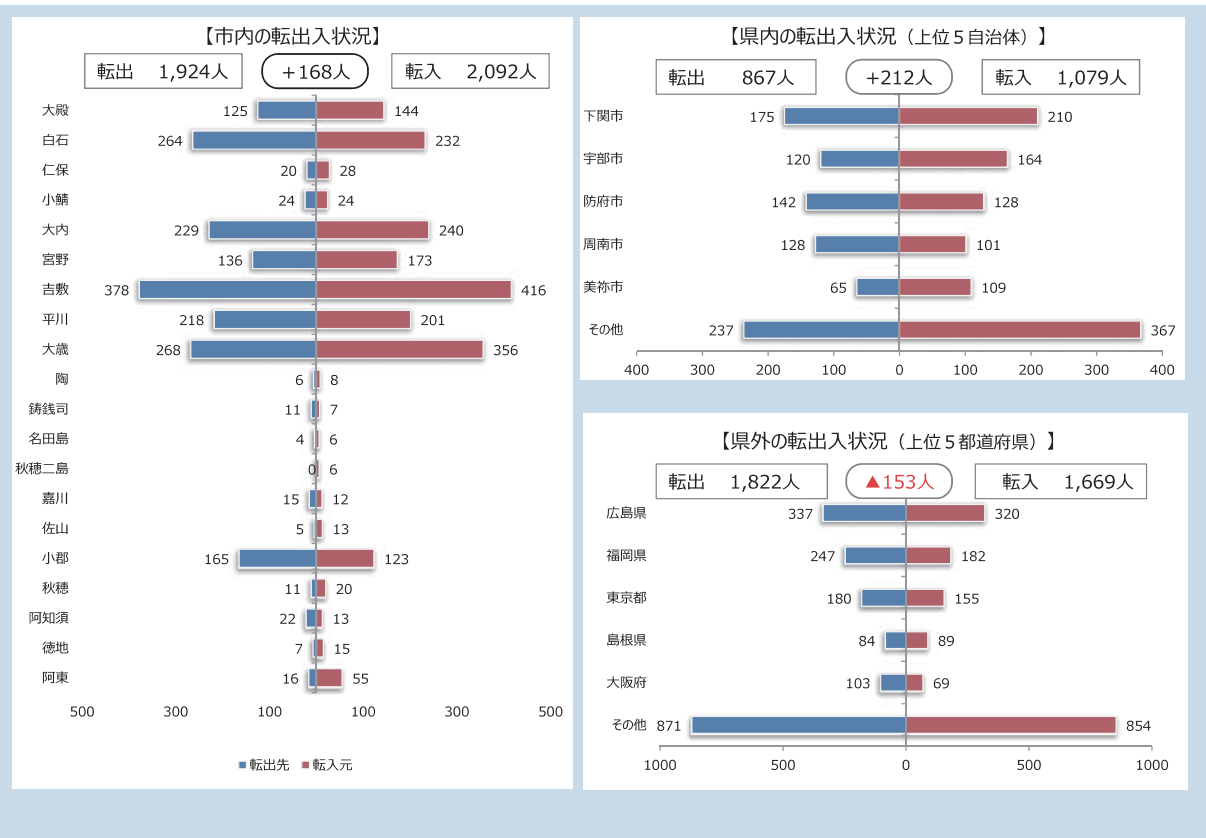
① 大殿地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



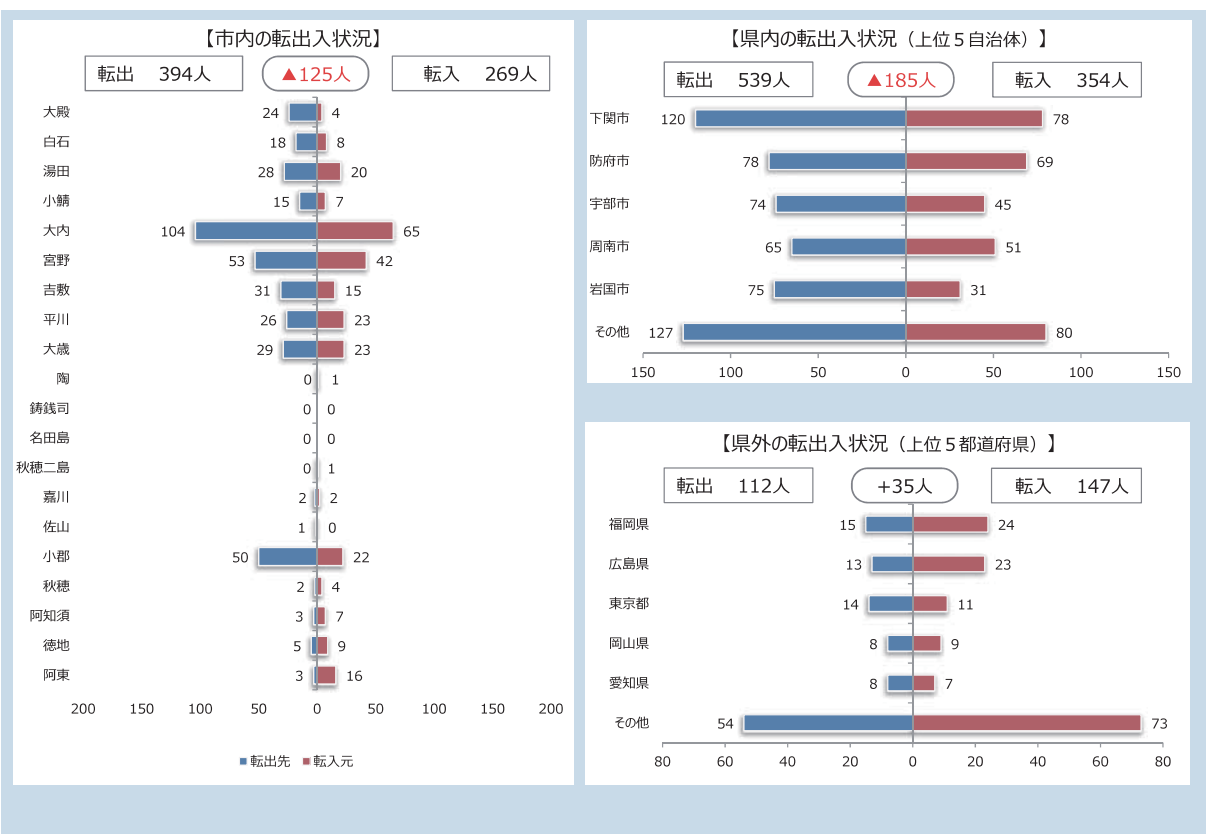
② 白石地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



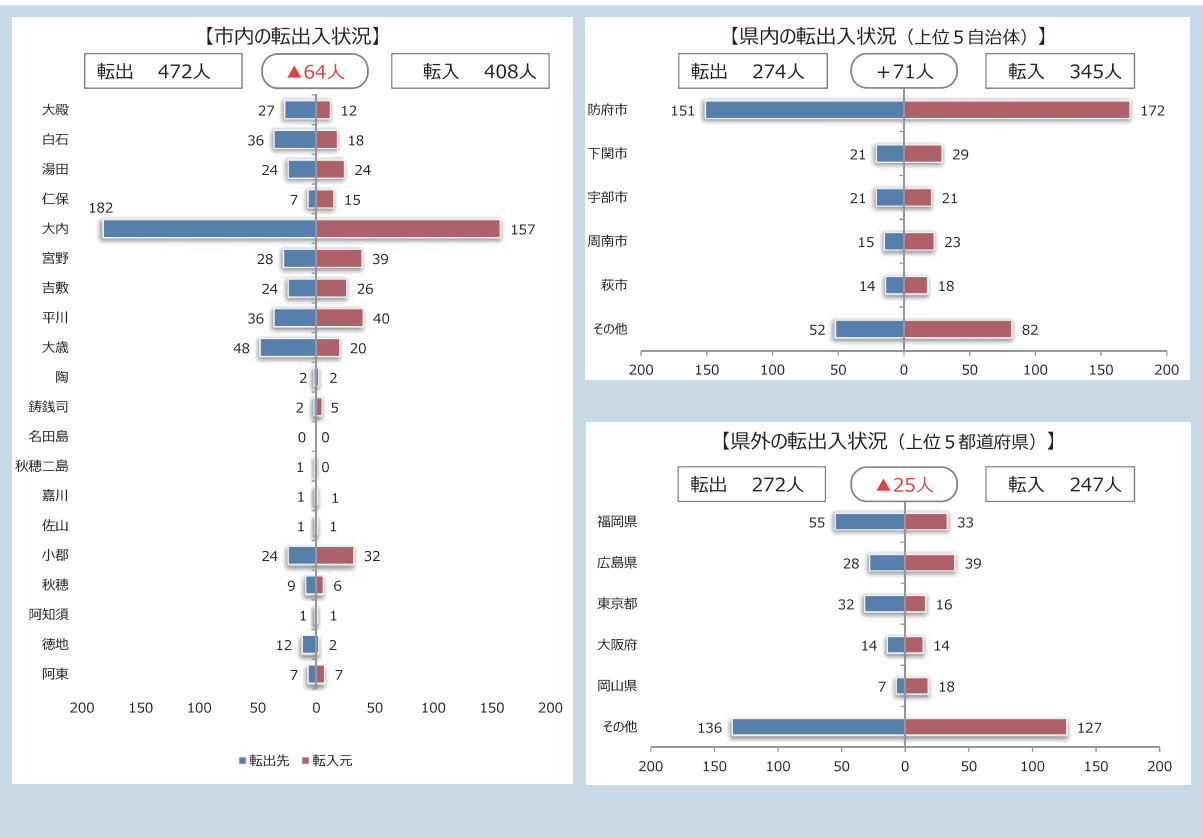
③湯田地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



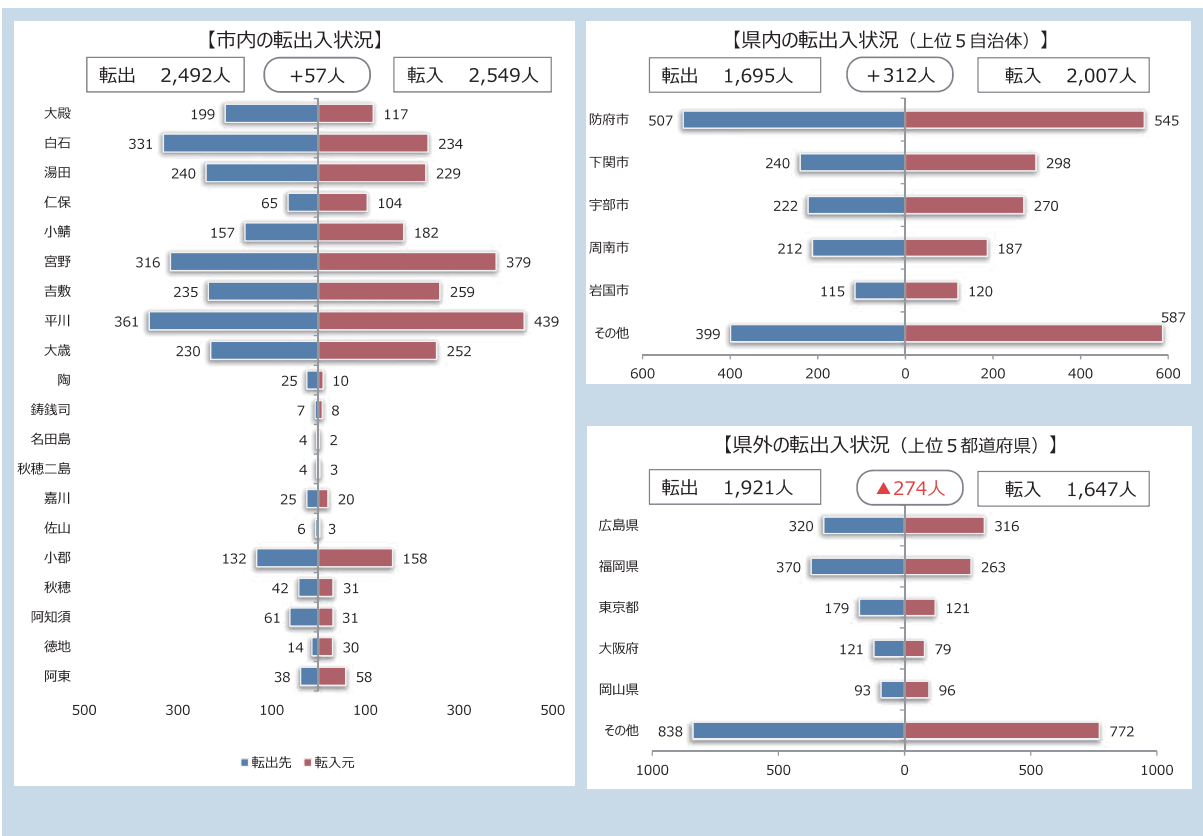
④仁保地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



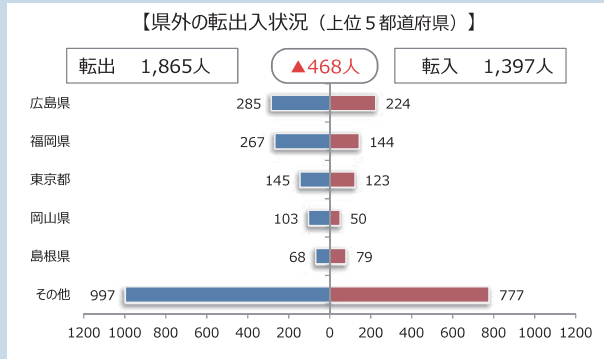
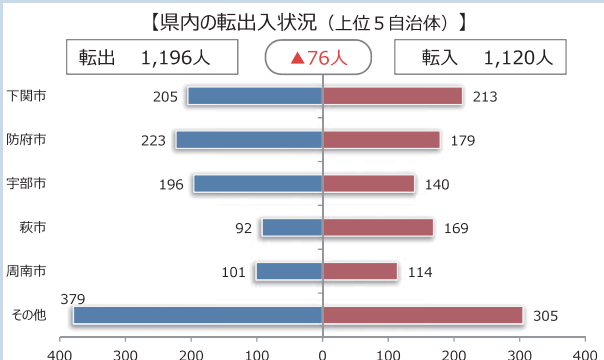
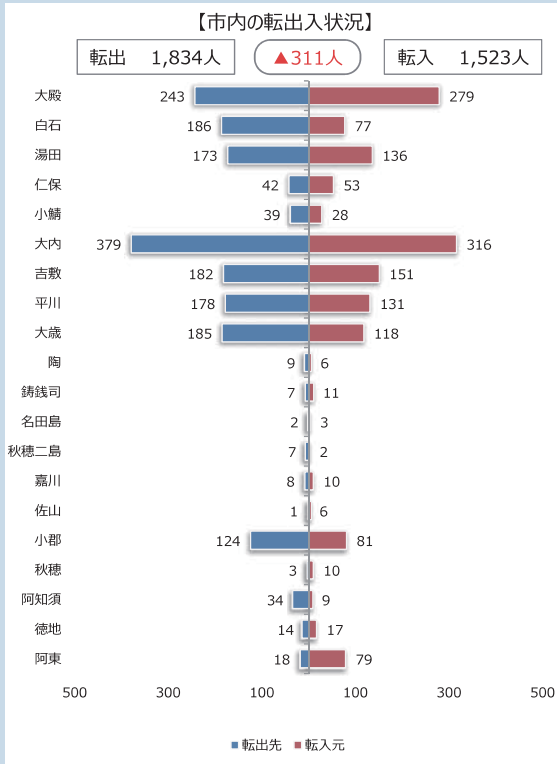
⑤小鯖地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



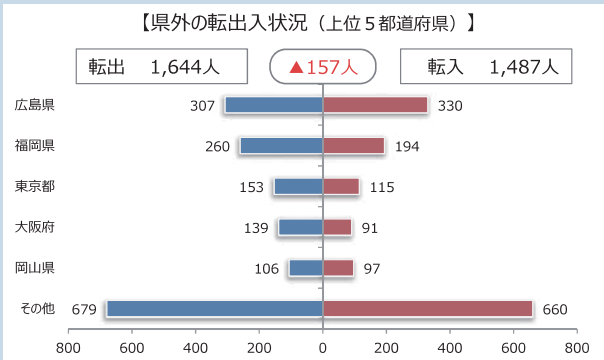
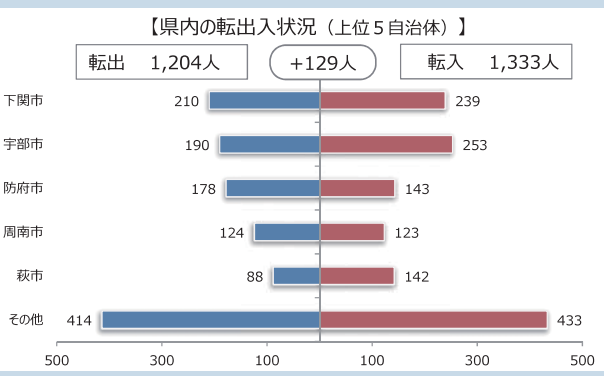
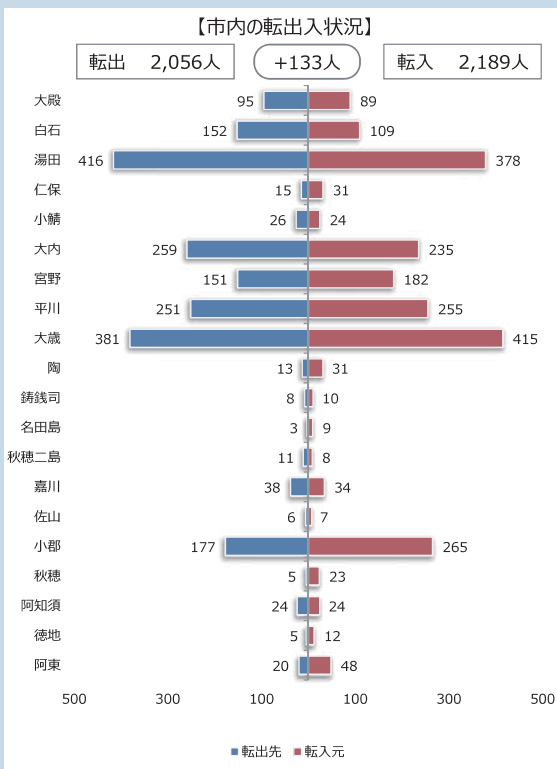
⑥大内地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



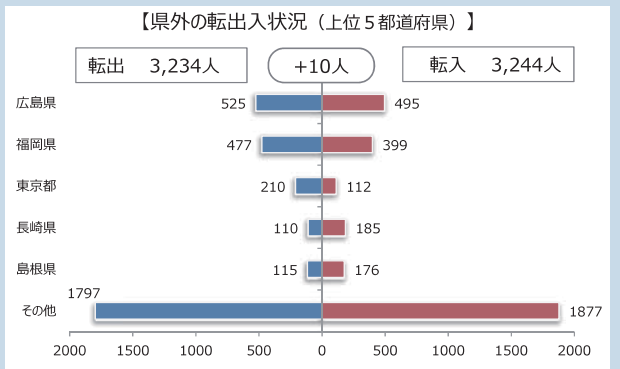
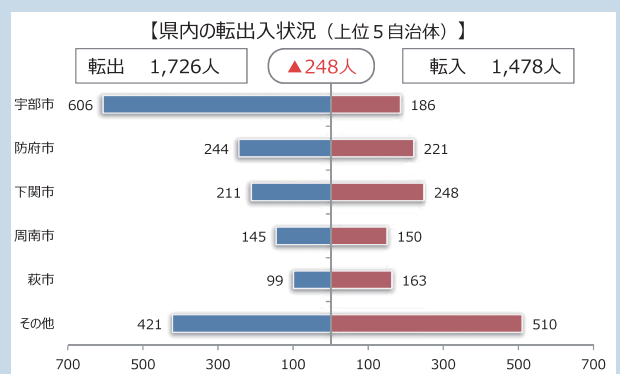
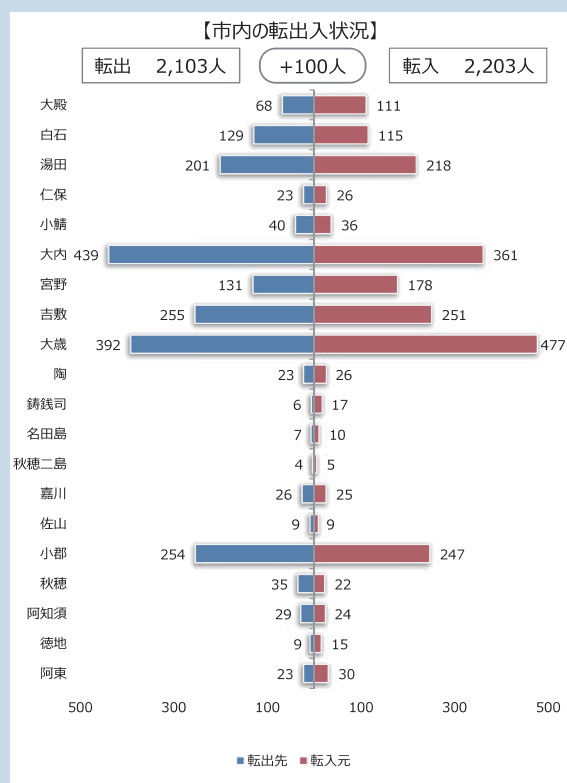
⑦宮野地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



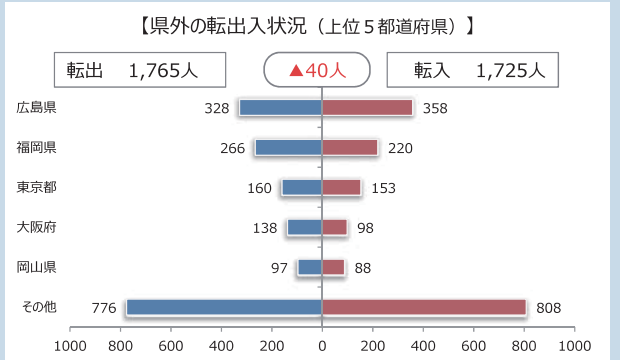
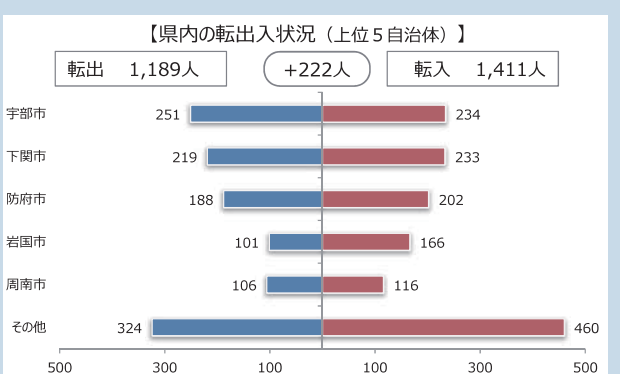
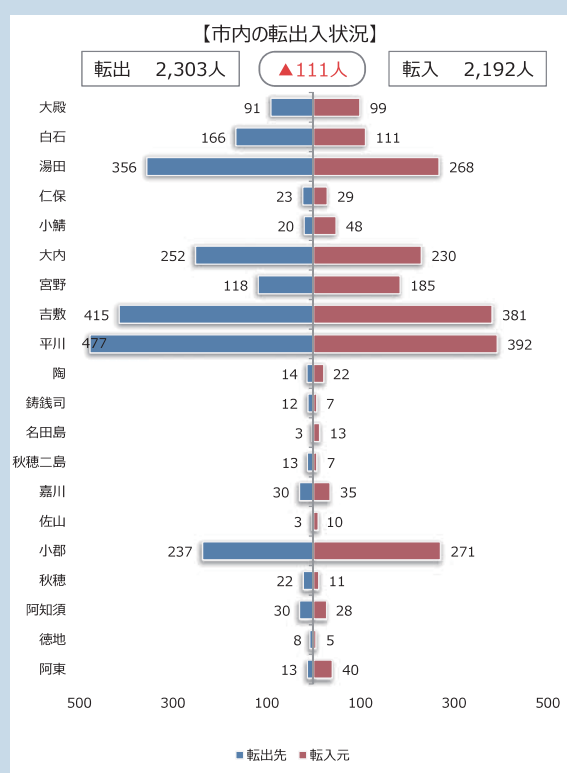
⑧吉敷地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



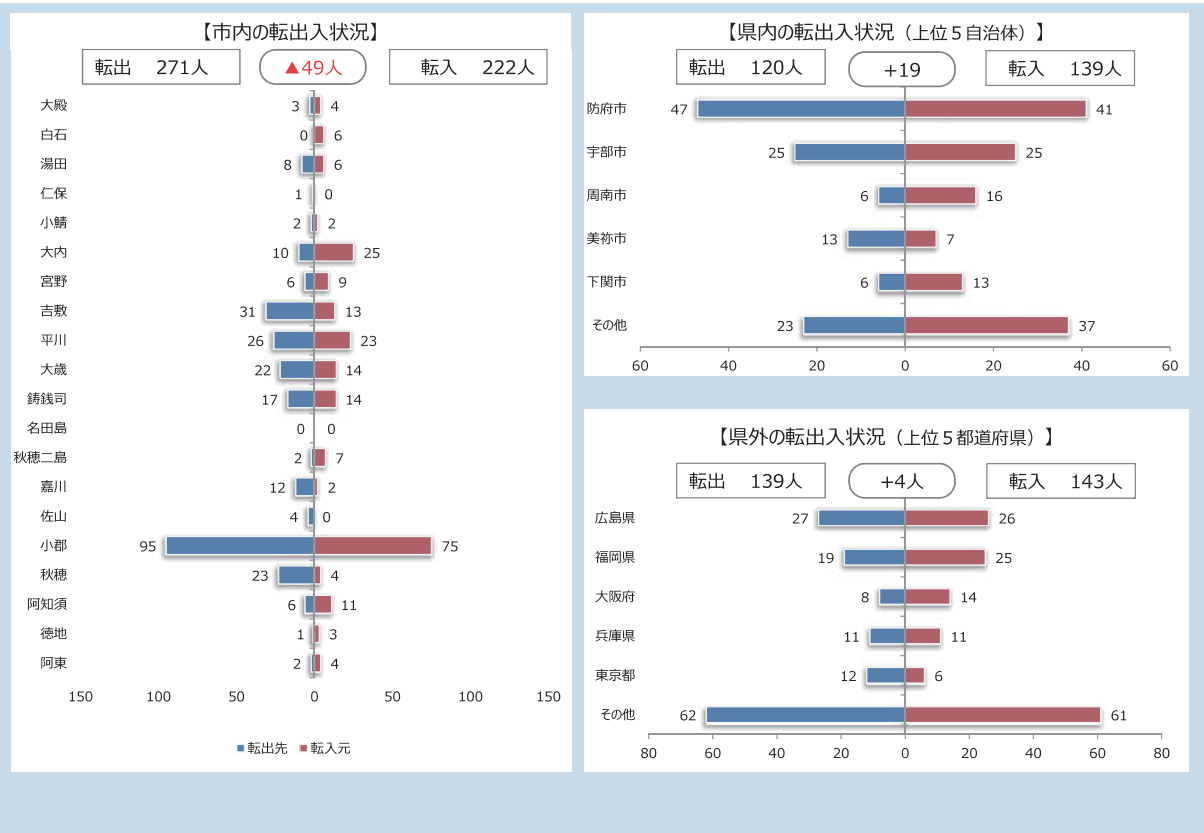
⑨平川地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



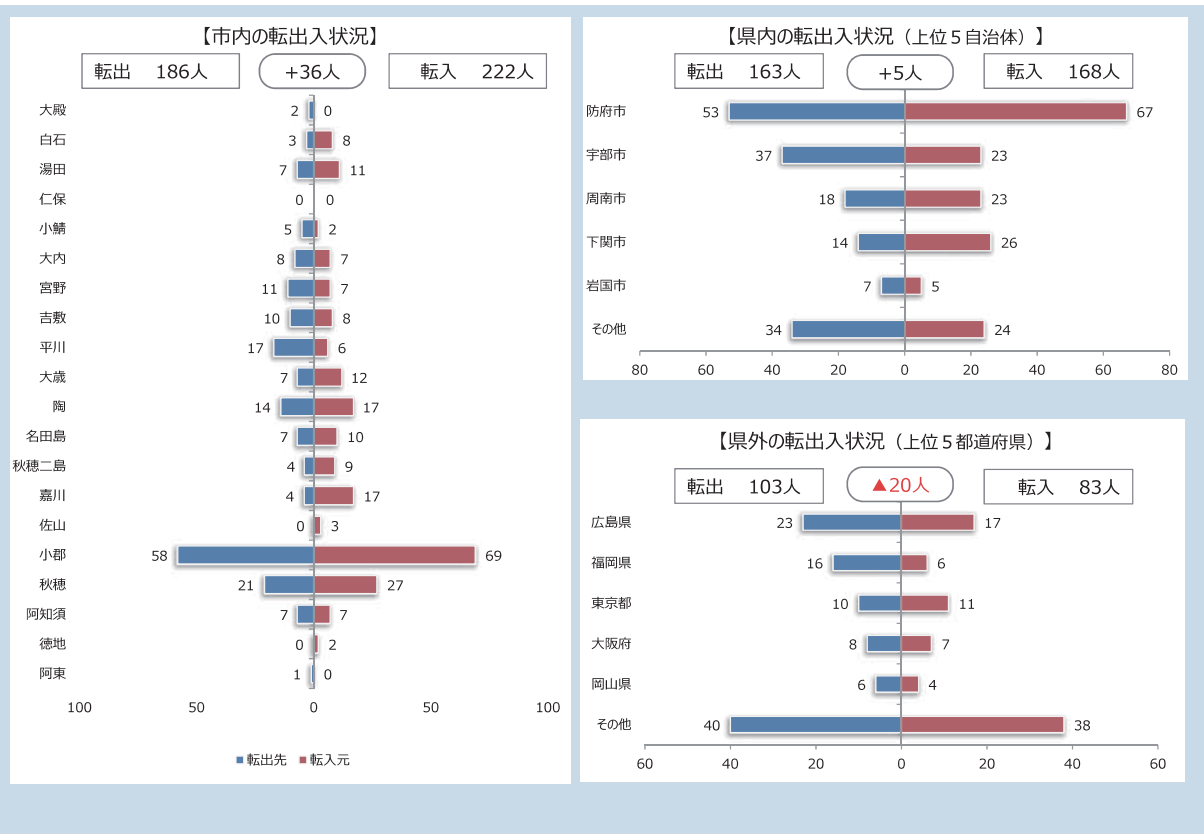
⑩大歳地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



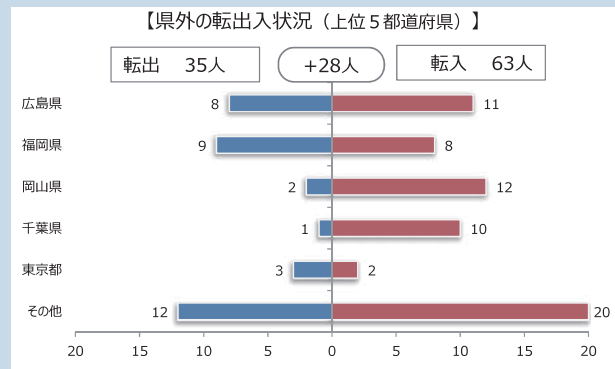
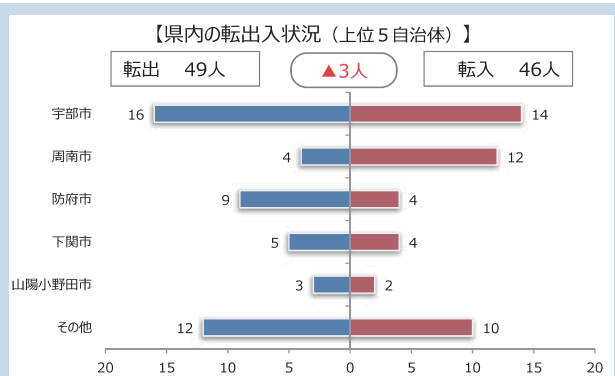
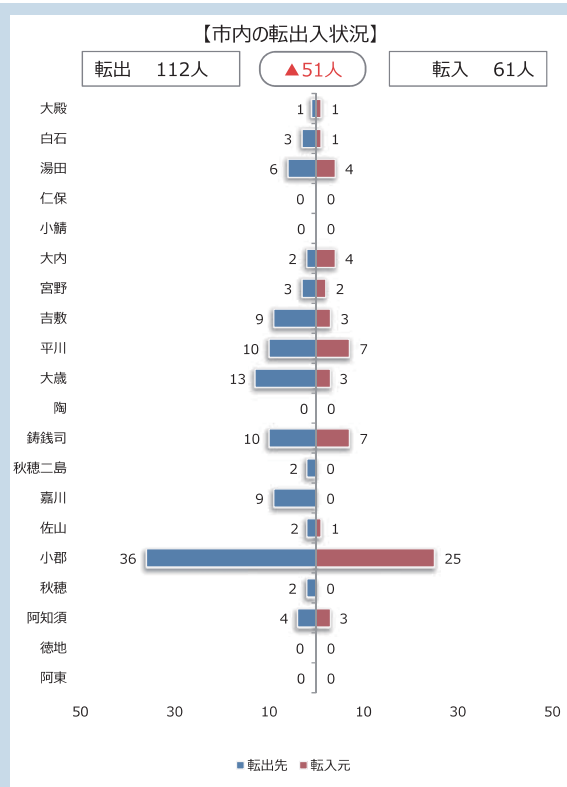
⑪ 陶地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



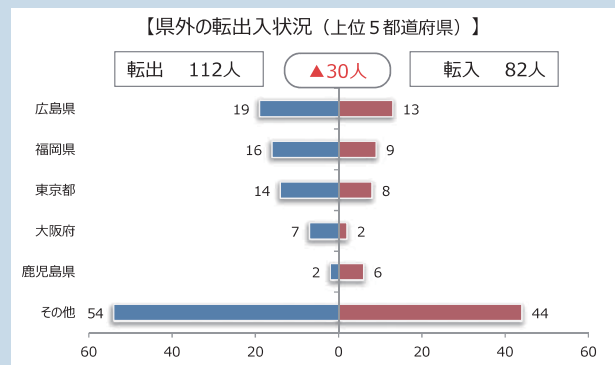
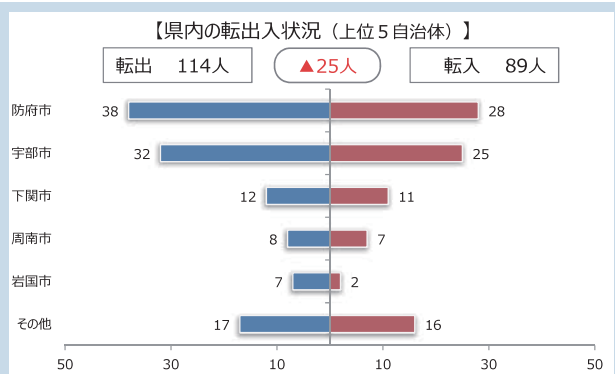
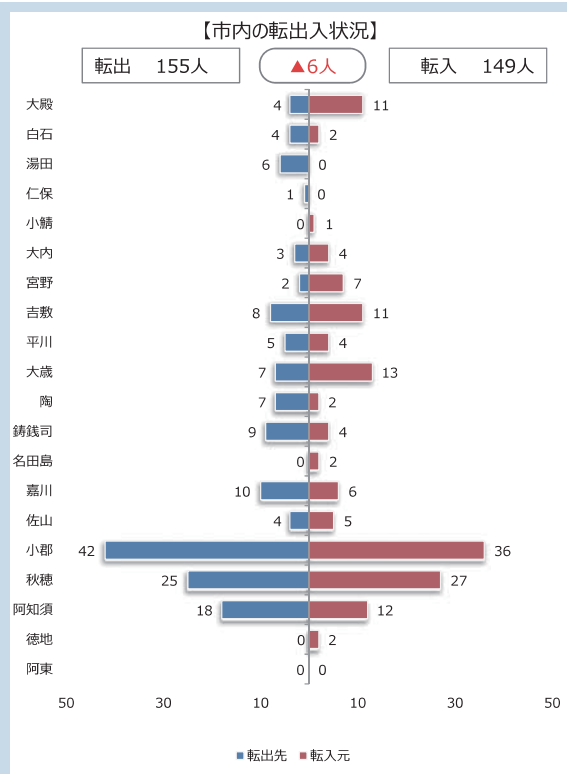
⑫ 鑄銭司地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



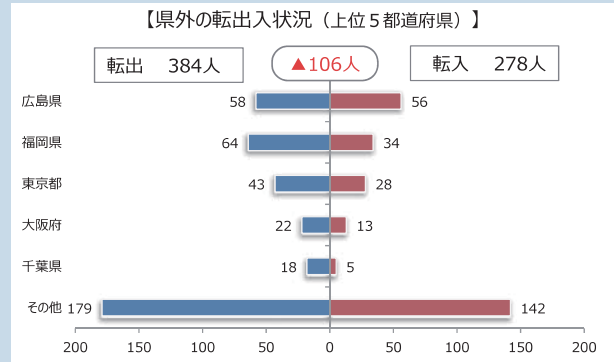
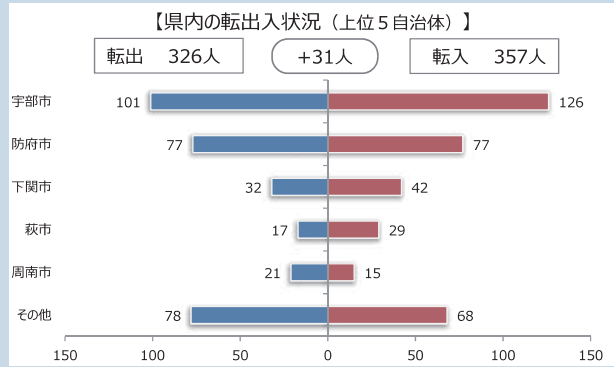
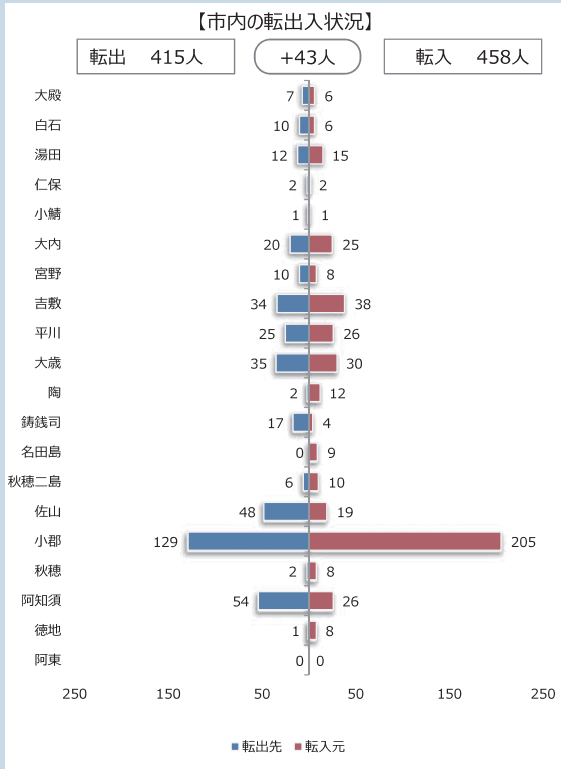
⑬ 名田島地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H22.10.1~H27.9.30)



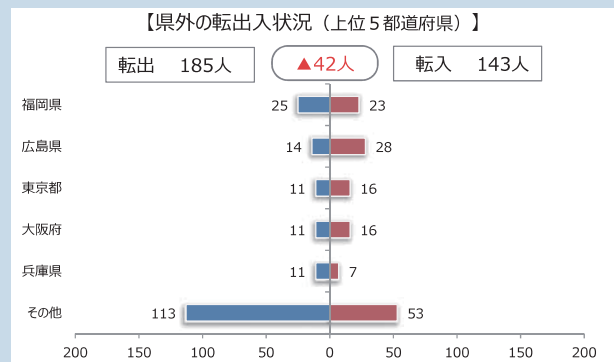
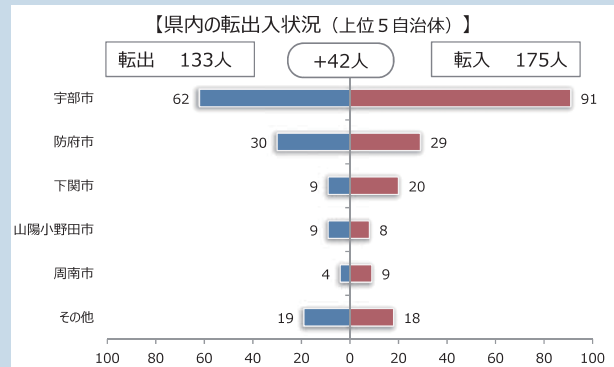
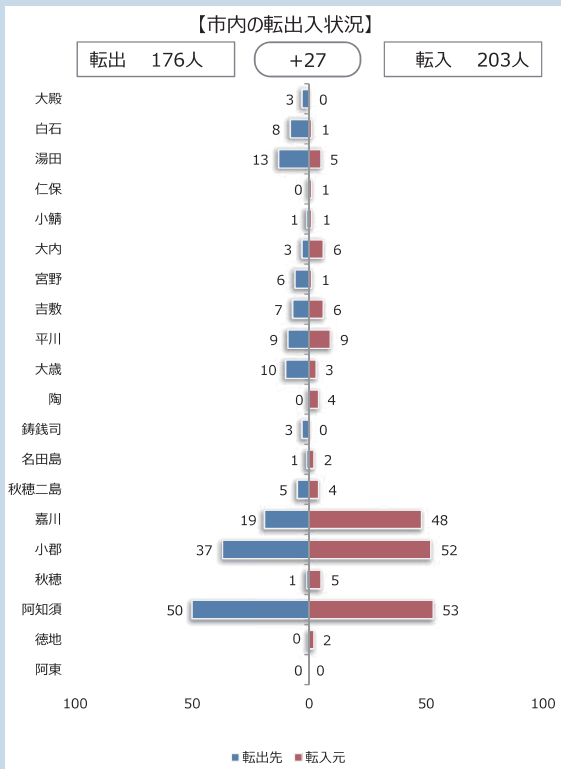
⑭ 秋穂二島地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H22.10.1~H27.9.30)



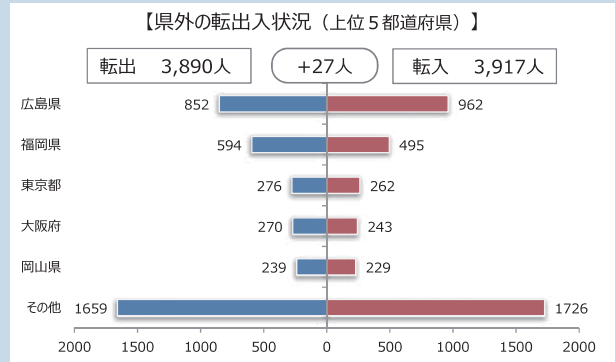
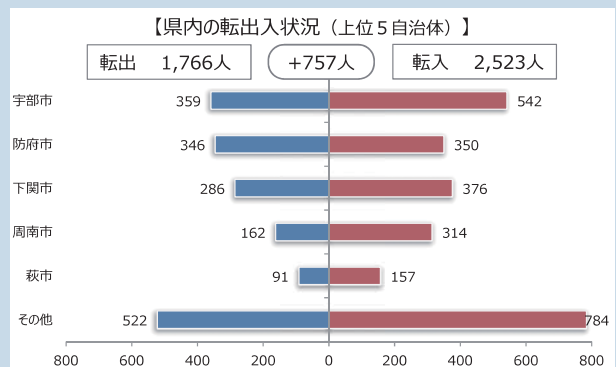
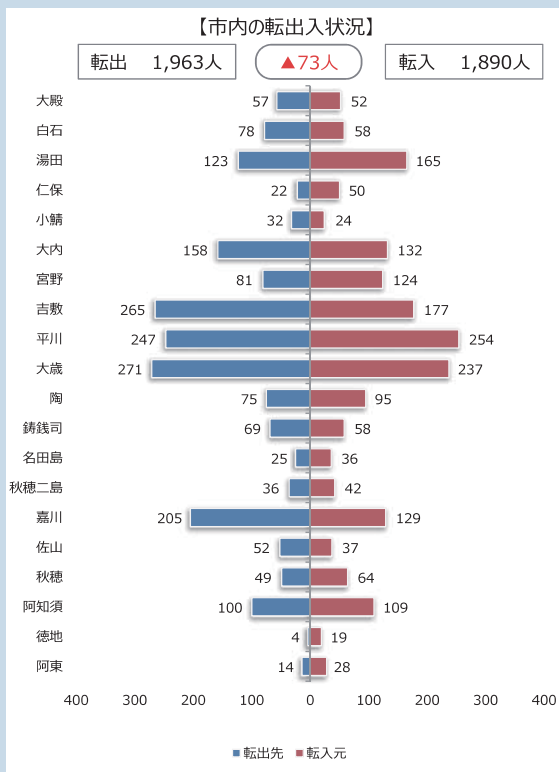
⑮ 嘉川地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



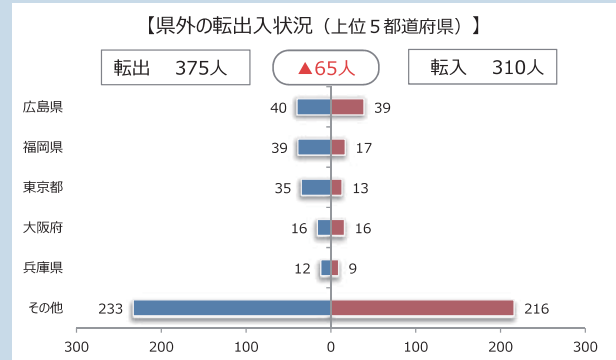
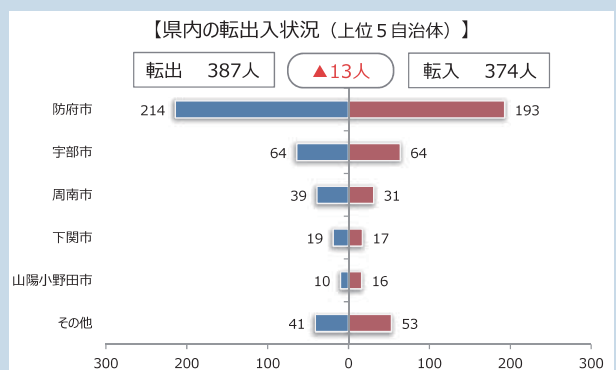
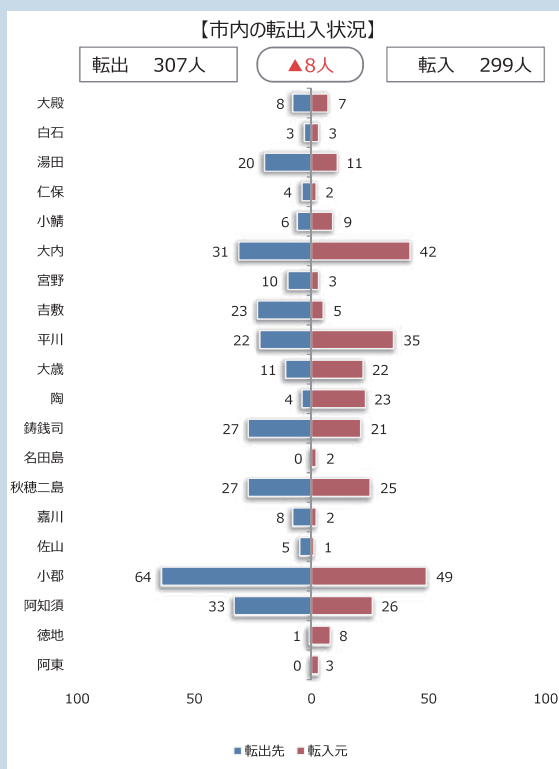
⑯ 佐山地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



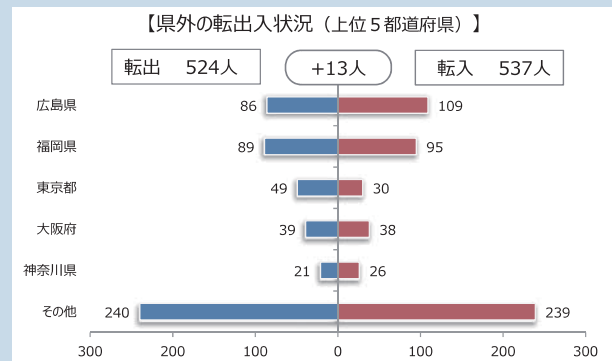
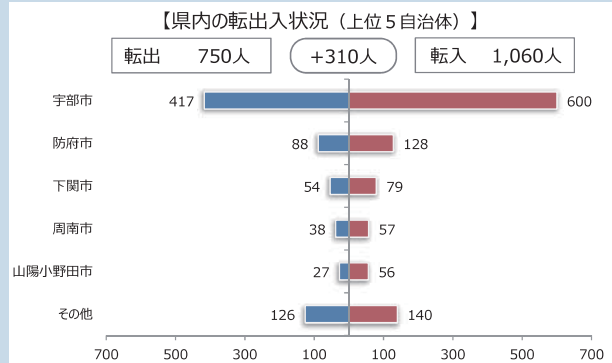
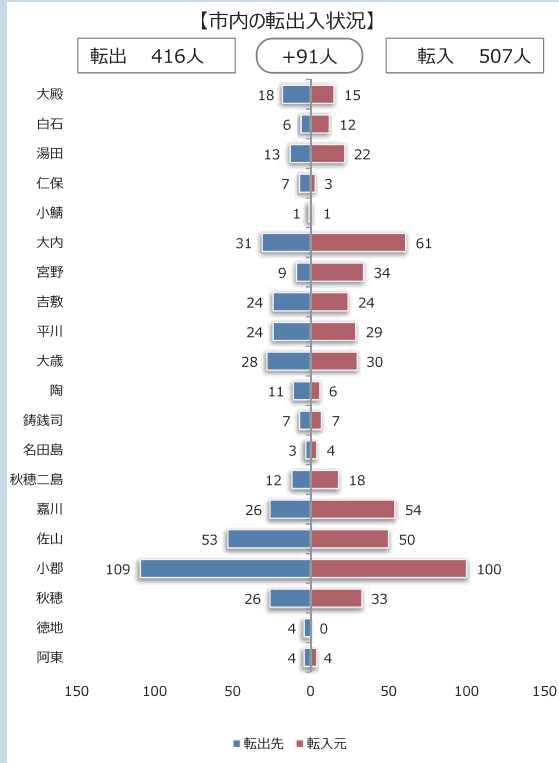
⑰ 小郡地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



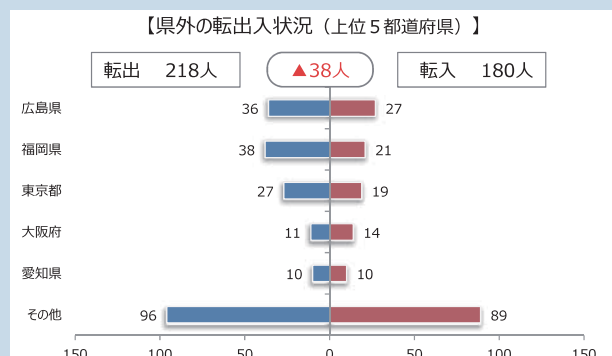
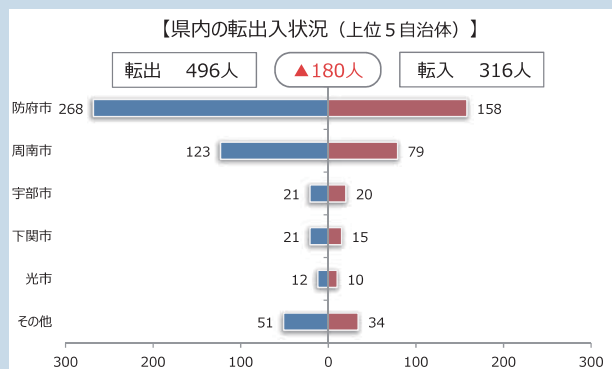
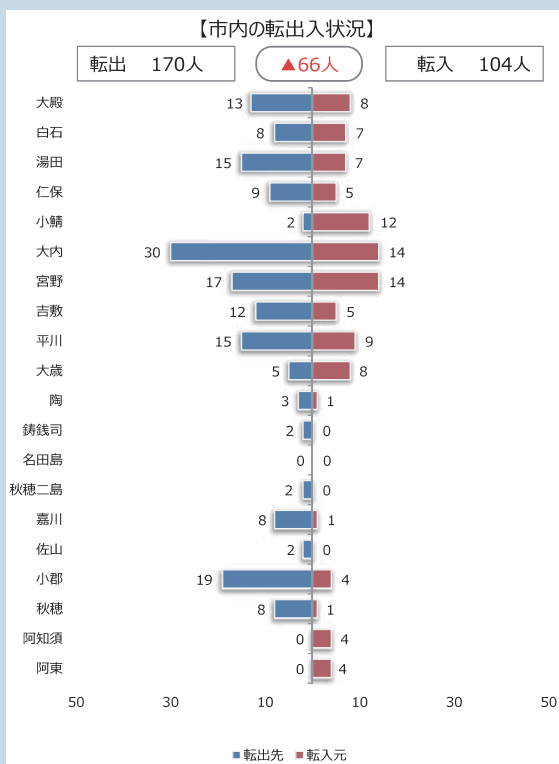
⑱ 秋穂地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



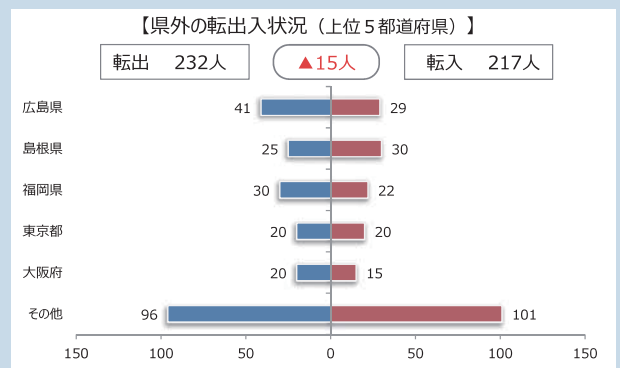
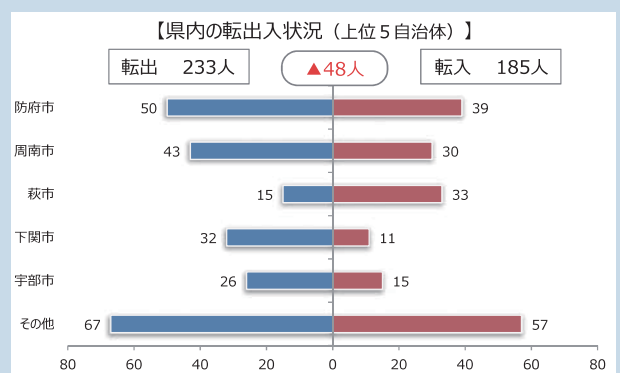
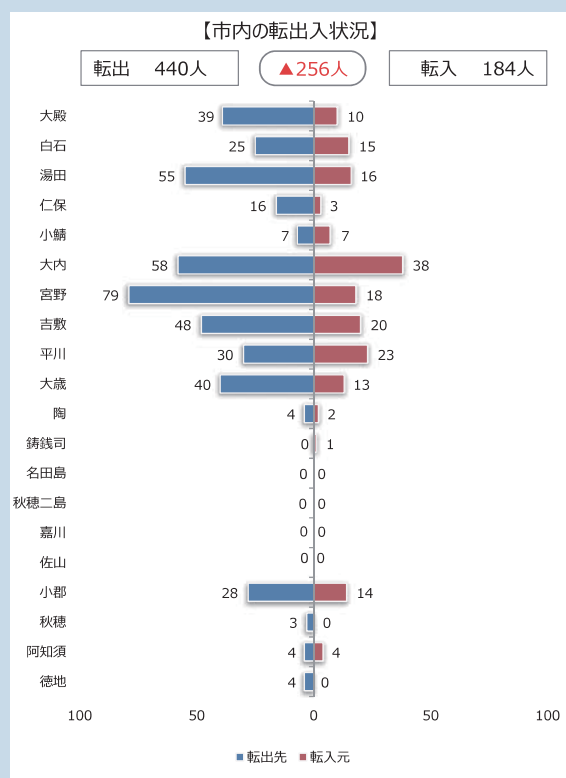
⑱阿知須地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



⑳徳地地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



②1 阿東地域 市内・県内・県外の転出入状況(H22.10.1~H27.9.30)



7 用語集

用語（五十音順）	説明	初出ページ
人口集中地区	人口集中地区（D I D）とは、統計データに基づいて一定の基準により「都市的地域」を定めたもの。国勢調査の基本単位区等を基礎単位として、1)原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、2)それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有するこの地域を「人口集中地区」としている。	8
将来人口推計	国立社会保障・人口問題研究所が、平成22年国勢調査を基に平成25年3月に公表した「日本の地域別将来推計人口」を踏まえ、本市が、平成27年国勢調査を基に、出生率、社会移動率等の仮定値を当てはめて計算する方法（コーホート要因法）により独自に推計。	9
S N S	ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、狭義には、人と人とのつながりを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネットを利用したサービス。	12
スマートハウス	太陽光発電システムや蓄電池などをうまく連携させ、エネルギーの需給バランスを管理して、最適なエネルギー利用のかたちを作り出すエコ住宅。ICT（情報通信技術）を活用して、省エネ性、快適性、利便性などの生活価値を向上させる住宅。	12
テレワーク	ICT（情報通信技術）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。「tele = 離れた所」と「work = 働く」をあわせた造語。	12
シェアリングエコノミー	個人が保有する活用可能な資産等（スキルなども含む）を、インターネット上のマッチングプラットフォームを介して他の個人等も利用できる経済活性化活動。	14
高次（の）都市機能	行政、教育、文化、情報、商業、交通、レジャーなど住民生活や企業の経済活動に対して、各種のサービスを提供する都市自体が持つ高いレベルの機能で、都市圏を越え、広域的に影響のある機能。	14
山口県央連携都市圏域	総務省の「連携中枢都市圏構想」に基づき、本市、宇部市、萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市、島根県津和野町の7市町で構成する県央部における広域連携の枠組み。本市と宇部市が連携中枢都市（中心都市）となり、近隣の自治体と連携し、「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」に取り組むことにより、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持することができる圏域を形成することが目的。	14
広域経済・交流圏	分散型都市構造にある本県において、広島、福岡・北九州地方中枢都市圏の中間に位置する県央部において求心力のある中核となる都市圏を形成し、圏域を構成するそれぞれの都市が、都市機能の役割分担・共有・連携のもとで、高次の都市機能の集積・強化を図り、交流や雇用が創出され、人口減少時代にあっても将来にわたって経済成長や発展を続け、個性と活力に満ちた一体性のある圏域形成が望まれるエリアのこと。	14
生活関連機能	商店、飲食店、郵便局やA T M、一般診療所や歯科診療所、介護老人福祉施設、保育所、小学校、商店、地域公共交通など、生活に関連したサービスを提供する機能。	15
ふるさと指標	山口市で暮らす「豊かさ」を「シビックプライド（山口への愛着や誇り）」、「心の豊かさ」、「まちの豊かさ」の3つの観点から、市民アンケートによって測る本市独自の指標。 基準値（平成29年度）は77.4ポイント、内訳は「シビックプライド43.3ポイント（50ポイント中）」、「心の豊かさ24.5ポイント（33ポイント中）」、「まちの豊かさ9.5ポイント（17ポイント中）」※端数処理の関係で各ポイントと、その合計値が一致しません。	23

KGI (重要目標達成指標)	Key Goal Indicatorの略。最終目標 (ゴール) に対する達成状況を計測するための定量的な指標。	37
KPI (重要業績評価指標)	Key Performance Indicatorの略。最終目標 (ゴール) を達成するためのプロセスが適切に実施されているかを計測するための定量的な指標。最終目標到達のためのプロセスは単一では無いことが多いため、一つのKGIに対し、複数のKPIが含まれる。	38
リノベーション	既存の建物に大規模な改修工事を施し、用途や機能を変更して、性能や価値を新築時と異なる次元へと向上させること。	38
スマートIC	高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるように設置されるインターチェンジ。通行可能な車両を、ETCを搭載した車両に限定している。	39
地域おこし協力隊	都市地域から農山村等に移住し、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売PR等の地域おこしの支援、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。	41
CI (コレクティブ・インパクト)	立場の異なる組織 (行政、地域、企業、NPO、財団、教育、有志団体等) が、組織の壁を越えてお互いの強みを出し合い社会的課題の解決を目指すアプローチ。	41
ICT教育	学校において実施する情報通信技術 (ICT) を活用した教育。教員と児童・生徒、児童・生徒同士のコミュニケーションが多様になったり、学習内容の共有がしやすくなったりする。本市では、各小中学校に電子黒板とタブレット端末の導入を進めている。	43
簡易水道	水道事業のうち、計画給水人口が101人以上5000人以下のもの。本市では、阿東地域における嘉年、徳佐、長門峡、篠生、生雲、赤松、吉部野、篠目の各簡易水道がある。	43
コミュニティ・スクール	学校、家庭、地域の方が協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えていく仕組み。学校運営協議会が設置された学校のことを指す。本市では、全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定している。	43
プログラミング教育	コンピューターなどを利用して、意図した処理を行うために論理的に考えていく「プログラミング的思考」などを育むこと。小学校の学習指導要領で2020年から必修化。	43
東京オリンピック・パラリンピックホストタウン	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を言う。本市は、山口県・宇部市とともにスペインを相手国としてホストタウンの登録を行っている。	47
MICE	企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。	47

パークマネジメント	維持・営繕といった従前の公園管理の考え方に留まらず、行政・民間・市民が連携して、公園が持つ様々な機能を有効活用しながら経済活力や交流を生み出していく考え方。	51
新市建設計画	旧1市4町（山口市、小郡町、秋徳町、阿知須町、徳地町）の合併後における新市のまちづくりの基本方針と、それに基づき合併後概ね10年間にわたって取り組む施策を定めた計画。合併特例債を活用する根拠となる計画。	52
山口・阿東新市基本計画	山口市と阿東町の合併後における新市の目標（将来像）や、まちづくりの基本指針などを定めた、市町村の合併の特例等に関する法律第3条に基づいて策定した計画。合併推進債を活用する根拠となる計画。	52

平成 30 年度の各種事業の取組状況を踏まえ、より適切な指標となるよう基本事業の指標名、指標値等の一部を見直しました。(第 3 刷：令和元年 10 月)

P171

- 3-7-1 用途地域内において、有効に利用されていない土地の割合
基準値 16.6 → 14.8
中間目標値 15.6 → 13.8
最終目標値 14.6 → 12.8
- 3-7-5 用途地域内における開発許可件数(平成18年度からの累計)→(平成20年度からの累計)
基準値 395 → 349 (H20~H29)
中間目標値 571 → 525 (H20~R4)
最終目標値 731 → 685 (H20~R9)
- 3-7-5 用途地域内における開発許可面積(平成18年度からの累計)→(平成20年度からの累計)
基準値 1,088,000 → 991,293 (H20~H29)
中間目標値 1,519,200 → 1,422,493 (H20~R4)
最終目標値 1,928,400 → 1,831,693 (H20~R9)
- 3-7-5 市が関与して解体に至った老朽危険空家の件数(10年間の累計：H30-R9)
基準値 20 → 0

P173

- 4-2-5 卸売・小売業市内総生産額(市町民経済計算)
→ 卸売・小売業市内 1 事業所あたりの売上(収入)金額
基準値 88,221 → 234,989 (H28)
中間目標値 88,534 → 282,767
最終目標値 88,795 → 329,924

P175

- 4-5-1 勤労福祉施設の利用者数
基準値 80,485 (H27) → 77,885

P177

- 5-4-2 財産貸付収入額
基準値 26,500 (H28) → 44,501 (H28)
- 5-4-2 市保有財産の売却額(累計)
基準値 127,233 (H28) → 0

第二次 山口市総合計画

発行：山口市
〒753-8650 山口市亀山町2-1

初版：平成30年3月

第2刷：平成30年7月

第3刷：令和元年10月

山口市総合政策部 企画経営課
〒753-8650 山口県山口市亀山町2-1

TEL.083-934-2747 FAX.083-934-2642
E-mail kikaku@city.yamaguchi.lg.jp